

**【研究主題】学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～**

9 外国語活動, 外国語科

(1) 外国語活動, 外国語科における学習内容の関連

外国語活動, 外国語科における思考力・判断力・表現力は, 外国語を通じて物事を思考, 判断したり, 使用する外国語や伝え方を工夫して表現したりするコミュニケーションの場面で最も発揮されるものである。

外国語活動では, このような場面においてコミュニケーション能力の素地が総合的に表出されていると考えられる。ここで言うコミュニケーション能力の素地とは, コミュニケーションへの関心・意欲・態度, 外国語への慣れ親しみ, 言語や文化に関する気付きのことである。このことから, 次に示す評価の3観点から思考力・判断力・表現力を捉える。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら, 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して, 言語の面白さや豊かさ, 多様なものの見方や考え方がることなどに気付いている。

外国語科においては, 技能の統合的活用の場面で思考力・判断力・表現力の見取りを行うことから, 次の評価の4観点のうち, 主として「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点から思考力・判断力・表現力を捉える。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして, 自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして, 話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して, 言語やその運用についての知識を身に付けているとともに, その背景にある文化などを理解している。

児童生徒に思考力・判断力・表現力を継続して育成するには, 既習単元における学習内容を本単元に結び付ける視点をもつことが大切である。単元間における題材・テーマ, 言語の使用場面, 言語の働きなどを関連付けて捉えることにより, 外国語活動では, 慣れ親しんだ外国語を本単元で想起させ, 児童の発想やコミュニケーションを図る活動を充実させることができる。外国語科では, 例えば, 既習単元において活用した言語材料や言語の使用場面を想起させることで, より多様な言語材料を用いた表現活動に導くことが可能となる(図10)。

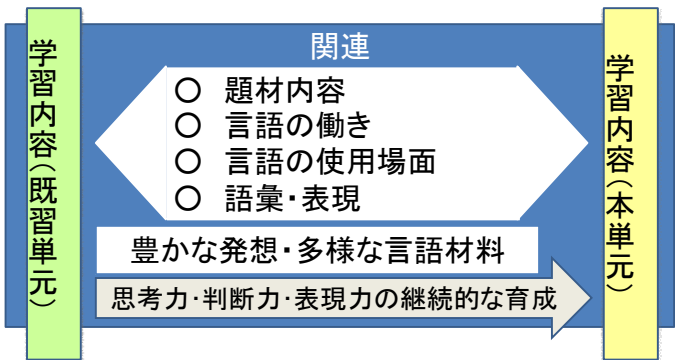


図10 外国語活動, 外国語科の学習内容の関連

(2) 外国語活動，外国語科における学習内容の関連を踏まえた指導

ア 知識・技能の活用を図る学習活動

思考力・判断力・表現力を育成するためには，学習内容の関連を踏まえた知識・技能の活用を図る学習活動の設定が効果的である。

外国語活動，外国語科においては，既習単元において設定した言語の使用場面や，活用した言語材料・表現形式等を本単元に効果的に取り入れることが考えられる。

例えば，表2に示すように，既習単元の果物，スポーツ，動物などの単語や，好きなものを伝え合う表現は，本単元でも活用することができる。ただし，外国語活動においては，語彙や表現の定着まで求めているため，外国語への慣れ親しみだけに焦点を当てるのではなく，関心・意欲・態度や気付きについても，既習単元との関連に留意

しながら指導していく必要がある。具体的には表3に示すように，教師の発問や助言などの働き掛けにより，既習単元における気付きやコミュニケーションへの関心・意欲・態度を本単元でも生かす工夫をすることである。

イ 見通し・振り返り学習活動

既習単元における知識・技能を活用させるには，本単元で指導する際に，表4で示したような指導の視点をもつことが大切である。このような視点をもつことにより，児童生徒に課題解決に向けた見通しをもたせるとともに，振り返りによって継続した学習の有用性に気付かせることができる。また，既習単元

と本単元において習得・活用しておくべき知識・技能を明らかにすることが可能となり，「判断の要素」や「判断基準」の妥当性をより高めることができると考える。

表2 学習内容の関連を図る例("Hi, friends!" 1 L4&L5)

前回(既習単元)	今回(本単元)
L4 I like apples. 好きな果物，スポーツ，動物について積極的に聞いたり話したりする活動	L5 What do you like? 色や形の好み，好きなものは何かを聞いたり話したりする活動
観 点	L5で関連付けるL4の学習内容
関心・意欲・態度	相手意識をもった，積極的な態度(表情，うなずき，ジェスチャー等)
慣れ親しみ	果物，スポーツ，動物などの単語を使い，好きなものを伝え合う表現
気付き	日本語と英語の発音の違い

表3 学習内容の関連を踏まえた指導例("Hi, friends!" 1 L4&L5)

評価の観点と活動場面	教師の発問や助言などの働き掛けの例
【気付き】 日本語と英語の音の違いに気付く。 (第1時)	T 「L4では，オレンジが oranges というように，日本語と英語の音の違いを勉強しました。今日勉強したTシャツの模様や色にも同じような違いがありませんでしたか。」 S 「トライアングルと triangle が違いました。」
【慣れ親しみ】 What ~ do you like?を繰り返し使う。 (第3時)	T 「好きな color, shape で T シャツを作ることができましたね。今使った What ~ do you like?の『～』を变えるといろいろな質問ができます。L4での活動からどんな質問ができますか。」 S 「スポーツ，フルーツも質問できます。」
【関心・意欲・態度】 自分の好きなものを伝え合う。 (第4時)	T 「これからインタビューの活動を行います。お互いに気持ちよく英語で聞いたり，話したりするために，前の単元(L4)から特に気を付けてきたことは何ですか。」 S 「始める前に挨拶することと，相手の目を見て話をする事です。」

表4 見通し・振り返り学習活動における指導の視点

指導場面	外国語活動	外国語科
見通し(学習課題の設定)	○ 課題から必要とする学習内容をつかませる。 ○ 既習単元で慣れ親しんだ表現の有用性を感じさせる。	○ 既習単元で習得した知識・技能の有用性を感じさせる。
言語材料の選択	○ 本単元で扱う言語材料の選択と慣れ親しませるための活動を設定する。 ○ 既習単元で慣れ親しんだ言語材料を活動の場面に組み込む。	○ 本単元で習得させる言語材料の選択と習得のための活動を設定する。 ○ 既習単元で習得した言語材料を活動の場面に組み込む。
理解・表現の活動	○ 既習単元及び本単元で慣れ親しんだ言語材料を扱う活動を設定する。	○ 既習単元のスキーマや内容理解の方法を活用させる。 ○ 内容理解を基に，既習単元及び本単元で習得した言語材料を活用する活動を設定する。
振り返り	○ 既習単元から本単元にかけて児童生徒に能力の向上を認識させる。 ○ 継続した学習の有用性を感じさせる。	

(3) 外国語活動，外国語科における学習内容の関連を踏まえた「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

ア 「判断の要素」・「判断基準」の設定

外国語活動においては，評価規準に表されている内容を，3観点から分析し，「判断の要素」として端的に示すことで，指導のポイントが明確になる。

外国語科においては，外国語表現の能力，外国語理解の能力の2観点から評価規準を設定し，その評価規準を分析的に具体化した「判断の要素」に基づいて「判断基準」を設定する。その際，単元間において共通または類似する題材，言語の使用場面，言語の働き，言語材料を明らかにした上で，「判断の要素」や「判断基準」を設定することで，既習単元と本単元との関連を効果的に図ることが可能となる（表5）。

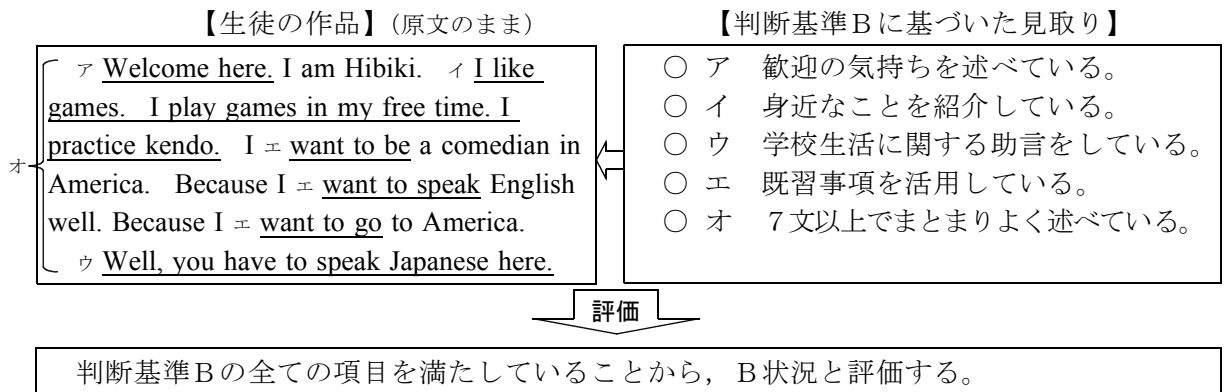
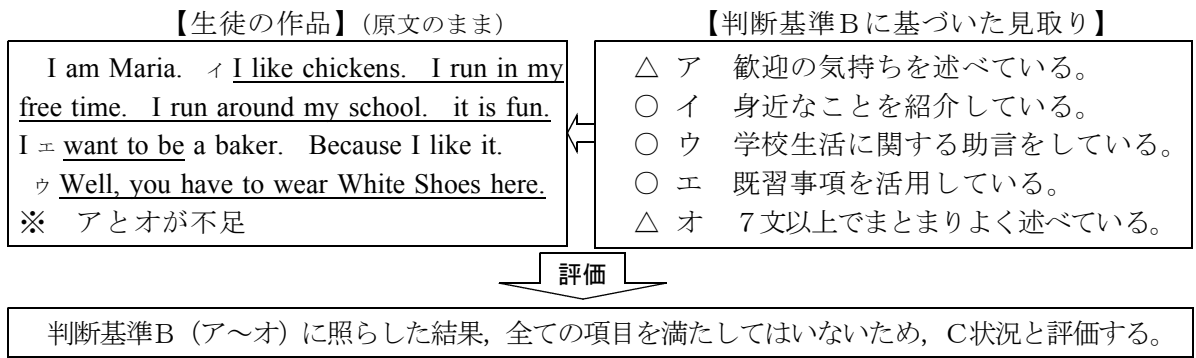
表5 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定例（中学2年 "New Horizon English Course 2"）

既習単元 単元名: Unit 3 My Future Job	本単元 単元名: Unit 4 Homestay in the United States	
評価規準		
○ 将来の職業と英語学習についての対話文を読み，これまで学んだ表現を用いて，職業選択について自分の感想や考えを5文以上の英文で書くことができる。	○ ホームステイの注意点についての記述を読み，これまで学んだ表現を用いて，日本に来た留学生に対してのアドバイスを含んだメッセージカードを7文以上の英文で書くことができる。	4技能の統合的な活動に関する評価規準
判断の要素		
ア 内容に関する記述 イ 自分の気持ちや価値観に関する記述 ウ 今後の自分の行動に関する記述 エ 既習事項の活用 オ 英文の量	ア 内容を基にした記述 イ 自分の気持ちや価値観に関する記述 ウ 相手の行動に関する記述 エ 既習事項の活用 オ 英文の量	評価規準を2観点から分析し，既習単元との関連を踏まえ，どのような基準で評価するのか端的に設定
判断基準B		
ア トピックを提示している。登場人物について述べている。 イ 登場人物の将来の職業に関して，自分の気持ちや価値観を述べている。 ウ 自分の就きたい職業とこれからの自分の行動について述べている。 エ 不定詞，未来形等を活用している。 オ 5文以上の英文で述べている。	ア 留学生と仲良くなるためのメッセージカードで歓迎の気持ちを述べている。 イ 自分自身の身近なことについて紹介している。 ウ 学校生活に関する助言をしている。 エ 忠告や助言に使われる表現を活用している。 オ 7文以上の英文でまとめよく述べている。	既習単元における「判断基準」を参考に，「判断の要素」に基づき，より具体的に設定

「判断基準」を設定することにより，目指す生徒の姿が明確になり，単元終末の言語活動に至るまでの指導が充実する。また，関連させる既習単元及び本単元における判断基準Bに着目することで，生徒の思考力・判断力・表現力の向上の程度を把握することができる。「思考・判断・表現」をおおむね満足できる学習状況で示したものが判断基準Bであることから，既習単元と比較することで，本単元における判断基準Bの妥当性を精査することができる。具体的には，既習単元での生徒の学習状況から，本単元で目指す生徒の姿が適切か，4技能の統合的な活動のねらいと評価の各項目は整合しているかなどを確認することである。

イ 「判断の要素」・「判断基準」に基づく評価

本単元において設定した「判断の要素」・「判断基準」に基づくと，児童生徒の活動や作品を通しての「思考・判断・表現」の見取りが的確に行われ，事後指導の際のポイントが明確になる。次は，表5で示した本単元における，二人の生徒の作品と判断基準Bに基づいた評価例である。



(4) 外国語科における「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

ア 補充指導

判断基準Bに到達していない生徒に対して、生徒の作品と判断基準Bの各項目と照らして補充指導を行う。その際、他の生徒の作品を鑑賞させたり、既習単元で作成した英作文を参照し、英文展開や言語材料等を参考にさせたりすることによって、気付きを促すことが可能である。例えば、前項で述べた、C状況にある生徒には、「歓迎の気持ちを表す表現」と「まとまりのある英文作成に必要な言語材料」の視点から指導を行った。以下に、補充指導後の生徒の英文を示す。

Welcome to Satumasendai. I am Maria. I like to run. I run around my school in my free time. It is fun. I want to be a baker because I like cooking.
Well, you have to wear white shoes in my school.

イ 深化指導

判断基準Bに到達している生徒に対しては深化指導を行う。深化指導とは、「判断基準Bに加えて、例えば、更にまとまりのある英文作成ができています。」などの判断基準Aに到達させるための指導である。前項のB状況にある生徒に対しては、英作文を更に充実させるために「修飾語句を効果的に用いて、自分自身の紹介を充実させるようモデルを提示する。」「更にまとまりのある英文となるように談話標識を複数提示したり具体例を挙げるときに有効な副詞を提示したりする。」などの指導を行った。以下に、深化指導後の生徒の英文を示す。

Welcome here. I am Hibiki. I practice kendo every day. I like to play games in my free time. I want to go to America because my dream is to be a comedian there. So I want to speak English well.
Well, you have to speak Japanese here.

判断基準Aは固定的に捉えるものではないことから、個々の生徒の実態や能力を考慮し、達成可能な範囲で指導することが必要である。

【平成26年度調査研究発表会】
第5分科会（外国語活動，外国語科）研究発表

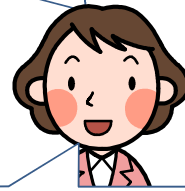
学習内容の関連を踏まえた
思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

鹿児島県総合教育センター

1

発表してみよう！

どのように？



何を？



どれくらい？

書いてみよう！

できるかな...

2

Hello. I am [] I like vegetables.
I like watching baseball. I play table tennis. It's fun.
[] friends. I like eating []
[] I like watching []
[] lake in []
Ikedda. It's very nice. We []
There.
Ibusuki is famous for Lake-Ikedda []
I think that it's beautiful. Lake-Ikedda is
very nice.
Welcome to Ibusuki.

どこがよい？

改善点は？

評価は？

3

〇〇について，
□□を用いながら，
文の量は…
他には…
…を表現してほしい。

「判断基準」

↑
尺

「判断の要素」

↓
度



4

〇〇について！
□□を用いながら！
◇文で！

〇〇と，□□と，
◇に気をつけて
やればいいんだ。



適切な
手立て

できそう！



できた！

表現してみよう！

5

研究の概要

継続的な 思考力・判断力・表現力の育成

学習内容の関連を図る指導の工夫(H25～)

単元A

言語活動
(気持ち・考え)

「判断基準」

補充指導 深化指導

関連

単元B

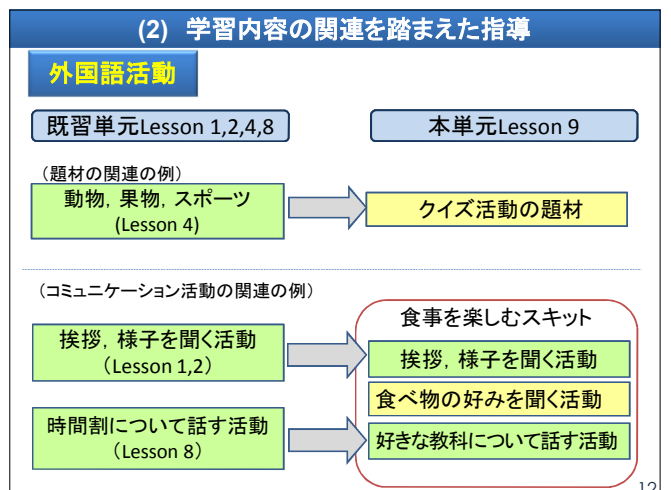
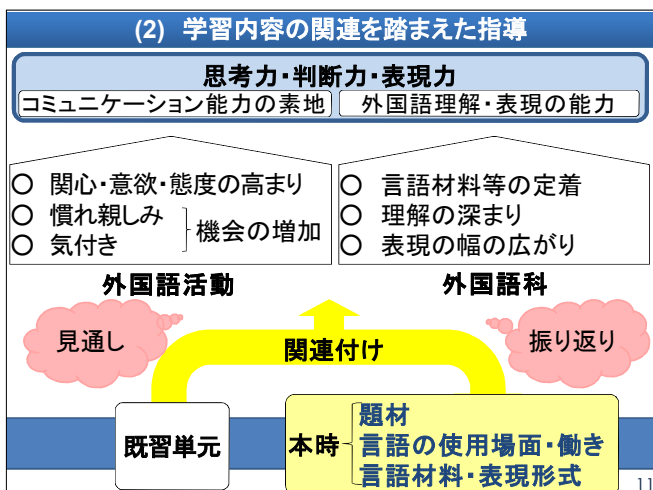
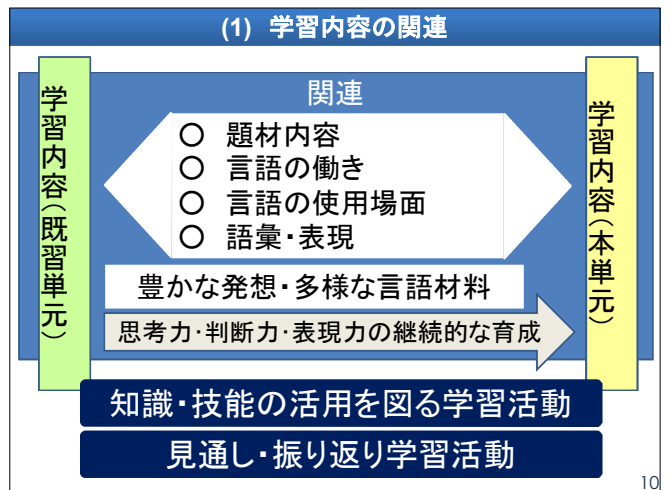
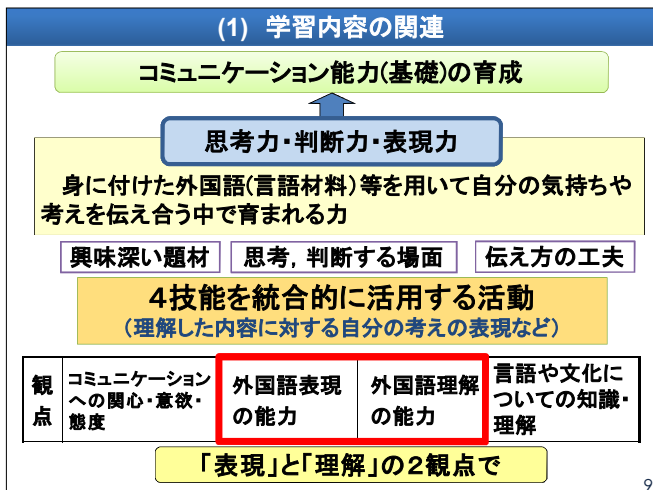
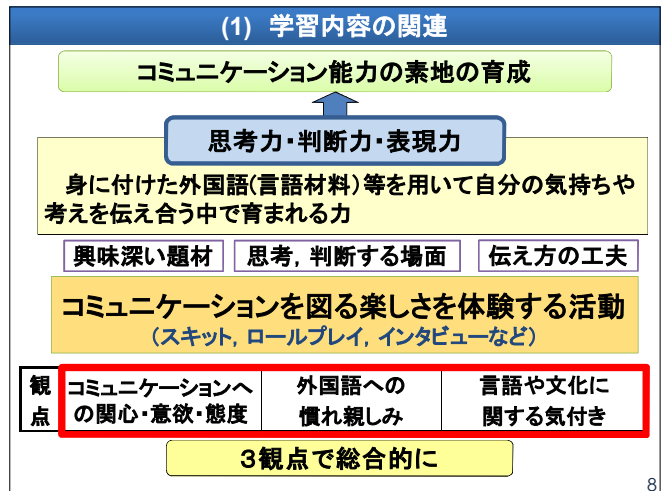
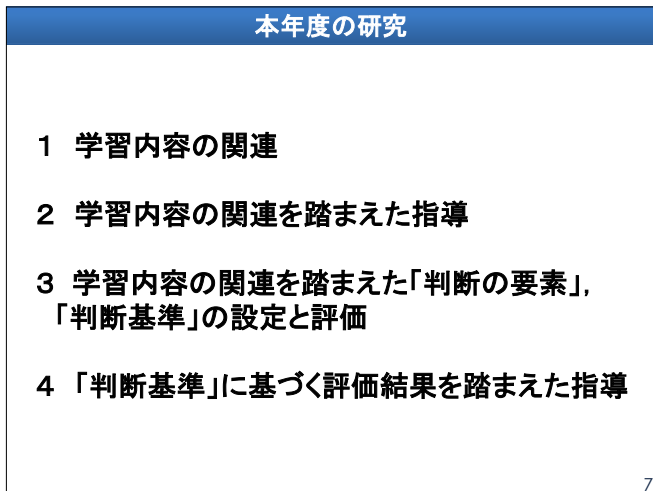
言語活動
(気持ち・考え)

「判断基準」

補充指導 深化指導

H23,24

6



(2) 学習内容の関連を踏まえた指導

外国語活動

Lesson 4
好きなものについて聞いたり話したりする活動

Lesson 5
Tシャツのデザインを通して、色や形の好みを聞いたり話したりする活動

観点	関連を踏まえる場面	関連を踏まえること
第1時【気付き】	外来語と英語の音声の違い オレンジとorange	同じような違いは？ トライアングルとtriangle
第3時【慣れ親しみ】	単語(果物, スポーツ, 動物)	他に好きなものは？ What fruit do you like?
第4時【関・意・態】	活動中の挨拶, アイコンタクト	気持ちよい活動とは？ 分からないときはどうする？

13

(2) 学習内容の関連を踏まえた指導

外国語活動

観点	関連を踏まえることで期待される姿
関心・意欲・態度	○ アイコンタクト, うなずき等 ○ 言葉によらない伝達手段 (ジェスチャー, 実物, 絵)
慣れ親しみ	○ What ~ do you like?で伝え合う内容が増える。 (color/shape) + (animal/sport/fruit)
気付き	○ これまでの学習を生かして, 違いに気付く。 (外来語と英語の音声/表現の意味の変化)

14

(2) 学習内容の関連を踏まえた指導

外国語科 4技能を統合的に活用する活動の到達目標

中学2年「読むこと」から「書くこと」

学期	到達目標	指導的要素
1	4文程度の自分の感想	It's ~ .
2	5文程度の自分の考え	I think it's ~ .
	6文程度の自分の意見 その理由を含めて	I think it's ~ because ~ .
3	7文程度の自分の意見 まとまりを考えて	I think ~ . First, ~ . Second, ~ 指示語, 接続詞, 副詞の効果的な使用

15

(2) 学習内容の関連を踏まえた指導

外国語科 (中学校2年 New Horizon English Course 2)

Unit 4 Homestay in the United States
ホームステイについての記述を読み、留学生に対する助言をする。

Unit 3
将来の仕事に関して、自分の行動について書く。

時	表現活動	指導的要素
1	名前, 好きなもの	見通し(気付かせる) 意見の表現は？ 今後の行動を示す表現は？ 生かせる内容は？ 振り返り(伸びの実感)
2	学校生活に関する助言	
3	家での過ごし方	
4	(3)についての自分の気持ち	
5	将来の夢	
6	(5)の理由	
7	テーマに関するまとまりのある文	

16

(3) 「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

外国語活動

コミュニケーションを図る楽しさを体験する活動

観点	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		

(例)小学6年

「できること」や「できないこと」を含めたクイズを通して、友達のことや自分のことについて尋ねたり答えたりしている。

判断の要素

- コミュニケーションへの態度
- 言葉を繰り返す様子
- 気付きに関する発言

17

(3) 「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

外国語活動

「できること」や「できないこと」を含めたクイズを通して、友達のことや自分のことについて尋ねたり答えたりしている。

判断の要素

- コミュニケーションのポイントの実践 (Smile. Listen carefully. Eye contact. Clear voice. Reaction.)
- canの使用
- 前時までに扱った表現の使用
- 英語と日本での言い方の共通点や相違点の気付きに関する発言

あらゆる機会を捉えた評価, 働き掛け

18

(3) 「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

外国語科 4技能を統合的に活用する活動
(例) 読む → 書く

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度(コ)	外国語表現の能力(表)	外国語理解の能力(理)	言語や文化についての知識・理解(言)
----	------------------------	-------------	-------------	--------------------

(例) 高校3年

評価規準
世界に広がる寿司文化と漁業の現状に関する英文を読み、自らの考えと今後取るべき行動について、英語でまとまりよく表現することができる。

判断の要素

- 題材は何か？
- どんな情報か？
- どのような表現？
- 文の量は？
- その他

尺
判断の要素
判断基準

19

(3) 「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

外国語科

評価規準
世界に広がる寿司文化と漁業の現状に関する英文を読み、自らの考えと今後取るべき行動について、英語でまとまりよく表現することができる。

B状況の生徒への深化指導 C状況の生徒への補充指導

判断の要素	判断基準B	予想される生徒の表現例(一部)
内容	本文を基にした具体的な内容	I love sushi. Sushi is a Japanese traditional dish, so I have thought that we can eat them forever. However, marine ecosystem are in danger because of overfishing. I'm surprised to know that the blue fin tuna is in risk of extinction. We have to save and protect marine food resources. I strongly believe that destructive...
自分の考え	課題に対する考えや主張	
分かりやすさ	文章構成	
英文の量	70語以上	

20

(3) 「判断の要素」・「判断基準」の設定と評価

	Unit 3	Unit 4
ア	内容に関して	内容を基にして
イ	自分の気持ちや価値観	自分の気持ちや価値観
ウ	今後の行動に関して	相手の行動に関して
エ	既習事項(不定詞等)の活用	既習事項(忠告、助言)の活用
オ	5文以上	7文以上

予想される表現例

思考力・判断力・表現力の向上/達成感

21

(4) 「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

I am Maria. I like chickens. I run in my free time. I run around my school. It is fun. I want to be a baker. Because I like it. Well, you have to wear White Shoes here.

判断基準B

- △ア 歓迎の気持ち
- イ 身近なことの紹介
- ウ 助言
- エ 既習事項の活用
- △オ 7文以上でまとまりよく

補充指導

Welcome to Satumasendai. I am Maria. I like to run. I run around my school in my free time. It is fun. I want to be a baker because I like cooking. Well, you have to wear white shoes in my school.

22

(4) 「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

Welcome here. I am Hibiki. I like games. I play games in my free time. I practice kendo. I'm happy. I want to be a comedian in America. Because I want to speak English well. Because I want to go to America. Well, you have to speak Japanese here.

判断基準B

- ア 歓迎の気持ち
- イ 身近なことの紹介
- ウ 助言
- エ 既習事項の活用
- オ 7文以上でまとまりよく

深化指導

Welcome here. I am Hibiki. I practice kendo every day. I like to play games in my free time. I want to go to America because my dream is to be a comedian there. So I want to speak English well. Well, you have to speak Japanese here.

23

成果と課題

成果

(外国語活動)

- 多様な表現への慣れ親しみ
- コミュニケーション活動の充実

(外国語科)

- 指導事項の焦点化
- 技能の統合的な活用を図る活動の充実

課題

(外国語活動・外国語科)

- ▲ 各学年の系統性を踏まえた指導計画づくり

(外国語科)

- ▲ 学年を超えて設定する「判断基準」の妥当性の検討

24

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成
 ～第6学年 既習表現を取り入れた自己紹介活動の実践を通して～

いちき串木野市立生福小学校
 教諭 田子山 ゆかり

はじめに

本校は、平成 25、26 年の 2 年間鹿児島県研究協力校として「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる外国語活動の在り方」を研究主題とし、全校態勢での研究に取り組んでいる。低・中学年においては、自校の指導計画を作成し、創意の時間において、低学年 10 時間、中学年 12 時間の外国語活動を行っている。また、高学年においては、“Hi! Friends”を活用し、35 時間の外国語活動を行っている。これまでの取組を通して、進んでコミュニケーションを図る児童が見られるようになってきている。

1 研究実践の基本的な考え方

(1) 研究の概要

本実践は、評価規準に表されている内容を 3 観点から分析的に整理した「判断の要素」を基に、評価のポイントを明確にして指導を行い、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図るものである。本年度は特に、既習単元の学習内容との関連を踏まえ、既習単元で慣れ親しんだ外国語を積極的に使ったり、非言語による伝達的手段を取り入れたりできるような活動の工夫をすることで、より豊かな表現でコミュニケーション活動を行う力を育むことを目指している。指導に当たっては、単元の導入においてデモンストレーションを行うことにより、児童は活動のゴールをイメージし、見通しをもって活動に取り組むことができると考える。

(2) 研究の意義



外国語活動における思考力・判断力・表現力は、外国語に慣れ親しむ活動を通して、言葉の面白さに気付き、身近な題材について感じたことや考えたことを自分なりの表現を工夫しながらコミュニケーションを図る楽しさを味わう体験を通して育まれる。教師は、授業のあらゆる場面における児童の様子を「判断の要素」を基に的確に捉えることで、指導を充実させることができる。また、本実践では、思考力・判断力・表現力を継続的に育成するという観点から、単元のつながりを意識し、外国語活動の学習に継続性や発展性をもたせている。外国語活動を単発的な活動とせず、本単元の内容に既習の学習内容を関連付けることで、外国語に慣れ親しみ、外国語を進んで使おうとするなど、児童の思考力・判断力・表現力を効果的に育成することができると考える。また、学習内容の関連を図る際に、活動の過程で身に付けた基本的な知識・技能を活用する場面を意図的・計画的に組み入れることが大切である。

(3) 研究の内容

ア 見通しをもって活動に取り組む指導計画の工夫


単元や活動の導入時に既知の単語や表現を組み合わせる HRT と AET がロールモデルとしてデモンストレーションを行う。これにより、単元のゴールに向かって何をするのかを児童に気付かせることができ、見通しをもたせながら活動に取り組むことができる。また、既習の学習内容を振り返らせることで、既に慣れ親しんだ語彙や表現を想起したり進んで使ったりしようとすることにもつながるものとする。



過程	見通しをもたせるための単元を通した活動の流れ
ふれる つかむ	<p>※ 単元の導入時のデモンストレーションのねらいとして、必然性や臨場感を出し、既知の外国語を用いたデモンストレーションを提示することで、活動への意欲付けを図り、単元のゴールに向け見通しをもたせるようにする。</p> <p>Hi, friends 1 Lesson 3 『I like apples.』デモンストレーション</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>A : Hello. What's this? B : It's apples. A : Oh! Do you like apples? B : Yes! I do. I like apples . A : Wow! I see.</p> </div> 
楽しむ	<p>※ ここでは、チャンツやゲームなど、単元で使う単語や表現に慣れ親しませるための活動を行う。例として、「マスキングゲーム」、「キーワードゲーム」、「ミッシングゲーム」、「じゃなくてチャンツ」、「カルタ取り」などがある。また、英語を使って、活発な交流ができるようなコミュニケーション活動も行う。例として、「インタビュービンゴ」や「ペアマッチ」、「オセロゲーム」、「3ヒントクイズ」などがある。ここでの活動により、児童はコミュニケーションを図る楽しさを感じたり、自信をもって表現したりするなど活動への意欲が一層高まってくる。</p>
振り返る	<p>※ 単元の終末では、導入時のデモンストレーションで示した内容に、既知の単語や表現を取り入れることで、自分なりの表現で、自分が伝えたいことを知らせることができるようになる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>Hi! I'm Chihiro. I like fruits. I like apples and bananas . Do you like fruits ? Oh! Good. Thank you. ※リンゴとバナナのイラストを見せながら発表!</p> </div> 

イ 単元の関連性をもたせながら、思考力・判断力・表現力の育成を図る単元構成の工夫
 外国語活動における思考力・判断力・表現力は、外国語を通じて物事を思考・判断させたり、使用する外国語の伝え方を工夫して表現させたりするコミュニケーションの場面で最も発揮されるものと捉える。そこで、単元の関連性をもたせた単元の構成を工夫するために、これまでの単語や表現等などの学習内容を整理し、本単元とのつながりを考えながら授業に取り入れていく。

授業実践 **Hi, friends ! 2 Lesson3 “I can swim.”**「できることを紹介しよう」

単元名	単語や表現	思考 判断 表現	過程	思考力・判断力・表現力を育てるためのねらい
Hi, friends!1 Lesson 1“Hello” Lesson 2“I’m happy.” Lesson 5“I like apples.” Lesson 8“I study Japanese.”	“Hello, I’m good.” “I like ~.” “sports, fruit” “P.E, calligraphy, home economics, music”		ふれる つかむ	既知と新知の単語や表現を使ってデモンストレーションを行うことで、これまでに学習したことを想起し、それらがどのような場面に使えるか思考・判断できる。また、新しい言葉に注目しどんな場面でどのように表現されているか捉えることができる。
Hi, friends!2 Lesson 1“Do you have “a”?” Lesson 2 “When is your birthday?”	“I have ~.” “Do you have ~?” “Yes, I do.” “No, I don’t.” “My birthday is ~.”		楽しむ	既知の単語や表現も使いながら、言葉に慣れ親しむためのゲームやクイズを行うことで、児童はそれらの言葉を繰り返し聞いたり、言ったりすることができ、本単元においてもそれらの外国語を駆使して活動に取り組もうとする。
			振り返る	慣れ親しんだ単語や表現を使いながら自己紹介をする。また、ジェスチャーや表情、絵や写真の提示など音声以外の伝達手段を取り入れながら、自分なりの表現の仕方について考えることができる。

ウ 学習内容の関連を踏まえ、3観点を視点としながら「判断の要素」を明確にした評価の工夫
 児童が、外国語に慣れ親しんでいる状況や活動への取組状況、さらに、活動を通じた体験的な理解の状況の評価するには、それぞれの観点の趣旨を適切に把握する必要がある。また、外国語活動では、単元の目標に照らして単元終末の児童の姿を想定し評価規準を設定する。その評価規準を分かりやすく端的に表した「判断の要素」を関連視点として設定した。「判断の要素」を設定することで、単元への見通しや個別支援などにも生かすことができる。

評価の3観点の趣旨・「判断の要素」

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いる外国語を聞いたり、話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方がることなどに気付いている。
判断の要素	<ul style="list-style-type: none"> 活動に関わる様子 様々な表現方法を工夫している様子 相手との関わりを大切にしている様子 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を用いて表現している様子 外国語を通して理解している様子 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と外国語の相違点に気付いている様子 日常生活や学校生活などについて、日本と外国の相違点等に気付いている様子

単元を見通した評価の方法

	ア 「判断の要素」を生かした評価	イ 振り返りを生かした評価	ウ 学習内容の関連を踏まえた評価
いつ	学習活動時	1単位時間の終末	単元終了時
どのように	事前に見取る場面を決めておき、児童の様子に応じて評価する。また、称賛や助言をしながらその都度、個別に働き掛け、支援の手立てを講じる。	評価の視点を示し、自己評価させたり、児童同士の交流の中で相互評価させたりする。また、教師の称賛で学習意欲の喚起と持続を図る。	前単元までの学習内容で活用が予想される表現や気付きなどについて整理しておく。それらの表出の様子から、思考力・判断力・表現力の高まりを評価する。
何で	言動観察	振り返りカードの確認 学習シートの点検	言動観察 Can do カードの点検

2 検証授業

(1) 単元名 「I can swim. ～できることを紹介しよう～」 (Hi, friends! 2)

(2) 単元について

本単元では、「できる」、「できない」という表現を使い、自己紹介ができる、ということを目指している。can の使い方に慣れ親しみ、それを使って、自分を表現するとともに、相手によりよく伝えるためにノンバーバルな表現も加えるなど、より豊かなコミュニケーションの態度について気付かせたい。また、一人一人は様々な面で違いをもっている。人によって、できることもあればできないこともある。互いの違いを受け止め、理解し合えるような雰囲気づくりにも配慮したい。

(3) 児童の実態 (調査実施日 平成 26 年 6 月 26 日 対象：16 人)

- 1 楽しく活動しているか。【外国語活動への興味・関心】
している：12 人 どちらかといえばしている：2 人 していない：2 人
- 2 1 の質問で『している』と答えた理由 (自由記述)
 - ・ ゲームや挨拶がある：6 人 ・ 英語が好き：1 人
 - ・ 英語を習っていて分からないところがどういうことか分かる：1 人
 - ・ 知らない英語を学べる：1 人 ・ 英語はいろんな国で使える：1 人
 - ・ AET の先生と仲良くなれる：2 人
- 3 1 の質問で『していない』と答えた理由
 - ・ 外国語が分からない：1 人
 - ・ 英語も全然言えないし、英語で言っている言葉が分からない：1 人
- 4 どんな活動が楽しいか。(記述)【外国語活動への興味・関心】
 - ・ ゲーム：14 人 ・ 歌：10 人 ・ 会話：3 人 ・ 挨拶：3 人
 - ・ 発表：1 人 ・ AET や ALT との授業：8 人 ・ 英語での読み聞かせ：1 人
- 5 外国語活動でコミュニケーションをとることは好きか。【コミュニケーションへの積極性】
とても好き：7 人 好き：3 人 あまり好きではない：4 人 好きではない：2 人
- 6 5 の質問でとても好き、好きと答えた理由
 - ・ 友達のことが分かる：6 人 ・ コミュニケーションが得意：1 人
 - ・ 外国の単語が分かる：1 人
- 7 5 の質問であまり好きではない、好きではないと答えた理由
 - ・ 恥ずかしいから：6 人
- 8 どんなことに気を付けながら交流活動をしているか【コミュニケーションへの積極性】
 - ・ 笑顔でする：8 人 ・ 目と目を合わせる：5 人 ・ よく聞く：6 人
 - ・ はっきり言う：3 人 ・ 反応を返す：6 人
- 9 これまでの活動で気付いたこと【外国語への慣れ親しみ、言語や文化への気付き】
 - ・ 月の言い方が詳しく分かった。
 - ・ 日付を言うときは、数のあとに『ス』が付く。
 - ・ 1 日、2 日、3 日などは特別な言い方をすることを初めて知った。
 - ・ 日本の文化について話すときは、日本語のままでもよいことが多い。「ふとまき」、「まめまき」、「けんだま」など
 - ・ 「けんだま」はそのままでの言葉で通じることがびっくりした。
 - ・ 一輪車乗りの英語を初めて知った。
 - ・ 柔道や空手などは play ではなくて do が付く
 - ・ スポーツは play で、作ったりするのは make というのが付くことを初めて知った。
 - ・ できることを言うときには I can～、できないときは No, I can't. という言い方をすることが分かった。

○ 考察

- ・ 多くの児童が外国語活動に楽しく取り組んでいる。
- ・ ゲームや挨拶、AET との交流などは積極的に取り組んでいる様子が見られ、内心は楽しいと感じつつも、恥ずかしさや自信の無さから、ややためらってしまう面も見られる。
- ・ よりよいコミュニケーションを図るための基本的要素である 5 スター (Smile. Eye contact. Listen carefully. Clear voice. Reaction.) を意識しながら活動に取り組んでいる。
- ・ これまでの外国語活動の中で取り上げてきた単語や表現、簡単な相づちや褒め言葉などについて、慣れ親しんでいる様子がうかがえる。

○ 手立て

- ・ デモンストレーションで、コミュニケーションの図り方の悪い例を示し、児童の気付きの中から、よりよいコミュニケーションについて捉えさせ、意識化を図っていく。
- ・ 自分の「できること」を発表するのは、他人を意識したり、何をもって「できる」というかという感覚に違いがあったりして、なかなか「できる」と言いづらい児童もいるのではないかと考えられる。そこで、感覚の違いについても触れ、自己肯定感をもたせるようにする。
- ・ これまでに学んだ表現や興味のある語句も取り入れ、意欲的な表現へと導いていく。さらに、動作・楽器・スポーツ以外に、けん玉やお手玉等の「遊び」を加えることで、自己表現に広がりをもたせ、積極的なコミュニケーション活動を促す。

(4) 学習内容の関連を踏まえた「判断の要素」の設定

ア 「判断の要素」の設定

【既習単元 Lesson 2】 When is your birthday?	⇒	【本単元 Lesson 3】 I can swim.
評価規準		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとしている。 ・ 英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 ・ 世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に友達にできることを尋ねたり、自分のできることやできないことを答えたりしている。 ・ 「できる」、「できない」という表現に慣れ親しんでいる。 ・ 言語や人、それぞれに違いがあることを知っている。
判断の要素		
ア 状況に応じた表現やジェスチャー、態度 イ When is your birthday?, My birthday is～ などの誕生日に関する表現の使用 ウ 日本語と外国語の違いについての気付き		ア 状況に応じた表現やジェスチャー、態度 イ can を用いた表現や既習の表現の使用 ウ 日本語と外国語の違いについての気付き

イ 「判断の要素」を踏まえた指導上の留意点

観 点	既習単元	本単元
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ア 月の特徴を示すジェスチャーを工夫して、豊かに表現しようとしている。 イ 誕生日を尋ねる表現や答える表現を使って、友達にインタビューをしようとしている。 ウ 相手の言葉に、動作や言葉で反応を返そうとしている。	ア これまでに表現した言葉を使いながら、積極的に表現しようとしている。 イ いろいろな友達に、進んでインタビューをしようとしている。 ウ ジェスチャーを工夫したり表情を変えたりしながら、できることやできないことを伝えようとしている。
外国語への慣れ親しみ	ア 月や日付の英語での言い方をよく聞き、音声で返そうとしている。 イ 英語での表現で、誕生日を尋ねたり、答えたりしている。	ア 挨拶や慣れ親しんだ単語、表現、相づちの言葉なども使って表現している。 イ 場面に応じて、できることやできないことの表現を使い分けている。
言語や文化に関する気付き	ア 1日、2日、3日などは、他の日付と違う言い方をすることに気付いている。 イ 誕生日の過ごし方について外国と日本の違いに気付いている。	ア 日本発祥の運動や遊びは、日本語のまま表現していることに気付いている。 イ 日本の遊びが様々な国にも伝承され、親しまれていることに気付いている。

(5) 目標

インタビューを通して、学習した英語の中から状況に応じた表現を使いながら、ジェスチャーや表情を工夫してコミュニケーションを図ろうとしている。

(6) 評価規準

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
児童の姿	状況に応じた表現やジェスチャー、態度	これまでに使ったことがある単語も用いながら、場面に応じて can を用いた表現をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じた表現を使い分けることに気付いている。 スポーツ等の英語での言い方、日本発祥のものは、日本語での表現などについて気付いている。
判断の要素	インタビューの際に5スターを意識し、ジェスチャーや表情を工夫しながら友達と交流している。	<ul style="list-style-type: none"> Can you ～? や Yes, I can./No, I can't. I can ～ .I can't～などの表現の使用 これまでに使ったことがある単語や表現の使用 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じた表現が必要であることの気付き 日本語や外国語の表現の仕方の違いの気付き

(7) 指導計画 (全4時間)

過程	時	主な学習活動	コ	慣	気	主な評価規準	評価方法
ふれる	1	1 動作を表す言葉や「できる」、「できない」という表現を知る。 2 動作や身近なスポーツについて何ができるかできないかを尋ねたり答えたりする。 (活動1) キーワードゲーム (活動2) ジェスチャーゲーム		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 英語で、「できる」、「できない」の言い方を知る。 スポーツや遊びなどの英語での様々な言い方について気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言動観察 振り返りカードの分析
つかむ	2	1 動作を表す言葉や「できる」、「できない」という表現に慣れ親しむ。 2 動作や楽器、遊びについてできるか尋ねたり答えたりしながら仲間探しをする。 (活動1) ミッシングゲーム (活動2) マッチングゲーム	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 英語で、「できる」、「できない」を繰り返し表現している。 日本発祥の運動や遊びは、日本語での表現になっていることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言動観察 振り返りカードの分析 	
楽しむ	3	1 ○×クイズで「できる」、「できない」の表現に慣れ親しむ。 2 インタビュー活動を通して積極的にコミュニケーションを行う。 (活動1) ○×クイズ (活動2) インタビュー	○	○	<ul style="list-style-type: none"> これまでに慣れ親しんだ挨拶や単語、相づちの言葉などの英語も使いながら、積極的にインタビュー活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言動観察 学習シートの分析 振り返りカードの分析 	
振り返る	4	1 インタビューしたことを使い、「Who am I?」ゲームを行う。 2 自分の「できる」、「できない」ことを紹介する。 (活動1) Who am I?ゲーム (活動2) 自己紹介	○		<ul style="list-style-type: none"> インタビューしたことを使って友達や自分の「できる」、「できない」ことを進んで紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 言動観察 振り返りカードの分析 Can do カードの確認 	

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 単元を見通した指導計画の設定や1単位時間の流れの工夫、導入時のデモンストレーションの設定などを行ったことで、児童が、単元のゴールに向かって、何をどのように学習していけばよいのかを具体的に捉え、見通しをもって活動に取り組むことができた。
- イ 単元を関連付けることで、児童が、活動の場面に必要な表現を思考・判断して選択し自分の伝えたいことをより豊かに表現することにつながった。また、既習の学習内容を振り返らせることで、自分が多様な外国語に慣れ親しんできていることに気付き、成長を感じさせることができた。
- ウ 思考力・判断力・表現力の見取りとして「判断の要素」を事前に設定することで、各時間で重点的に評価する内容や児童を定め、単元全体を通して計画的に全員を評価することができた。また、設定した「判断の要素」は、児童の具体的な行動と結び付き、授業で指導すべきポイントを明確にすることができ、個別の支援に生かすことができた。

(2) 課題

- ア 年間指導計画や学年を超えた（中学校へのつなぎも含む）系統性についても踏まえながら学習内容の関連を明確にし、単元を見通した指導計画に生かしていくことで、児童の思考力・判断力・表現力の積み上げを継続していく必要がある。
- イ 全ての単元で「判断の要素」を設定し、職員間の共通理解を図りながら同じ視点に立って指導に当たれるようにしていく必要がある。

おわりに

本研究を通して、単元を見通した指導計画を設定していくことで、単元間のつながりをもたせた単元の構成について練り上げることができ、既習の学習内容や活動を関連付けながら活用していけることを実感できた。また、児童自身も既知の外国語が様々な場面において使えることや、自分の考えや思いに合った外国語を使いながらコミュニケーション活動に取り組むことの面白さを体感できたように感じる。今後も児童の思考力・判断力・表現力を継続的に育成できる手立てを講じ、コミュニケーション能力の素地を養っていけるように、より一層研究を積み上げていきたい。

<p style="text-align: center;">学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成 ～第2学年 読んで理解したことを基に書いて表現する活動の実践を通して～</p>
--

指宿市立西指宿中学校
教諭 新田 千夏

はじめに

本校は、指宿市の北西部に位置し、天璋院篤姫で知られる今和泉地区と、池田湖と開聞岳を臨む自然にあふれた池田地区からなる、創立 50 周年を迎えた学校である。校区は今和泉海岸や今和泉漁港一帯及びその内陸部から、観光地として知られる九州最大の湖である池田湖にかけての農村地帯を有する、農業及び漁業を中心とした地域であり、緑に囲まれた教育に極めて良好な環境である。全校生徒は各学年 1 学級 73 人の小規模校である。

本校の英語科は 2 人で構成され、少人数指導等のきめ細かな指導を行うための体制を整えていただいている。現在は 1 年生において T T (ティームティーチング)、2 年生と 3 年生では少人数指導を行っており、本校の教育目標である「豊かな心で人間力を身につけ、確かな学力と心身ともに健康で活力ある生徒の育成」に向けた生徒一人一人の個性を伸ばす指導を行っている。意欲的に学習や学校行事に取り組む生徒が多く、全員に居場所のある安心安全な学校である。

学習面においては、昨年度の鹿児島県学習定着度調査で県の平均をやや下回り、本年度の標準学力調査 N R T においては 2 年生、3 年生の偏差値平均が全国平均をやや下回った。特に「話すこと」、「書くこと」の通過率が低く、中でも「書くこと」においては全国平均の 7 割程度の通過率であり、学力向上への取組が必要である。

1 研究の視点

(1) 外国語科（英語）における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

ア 4 技能を統合的に活用させる言語活動

今回研究を行った第 2 学年においては、第 1 学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを意識してより充実した言語活動を図ることができると考える。その際、教科書本文の内容理解に基づいて事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容を用いてコミュニケーションを図ることができるような話題を取り上げることが大切である。

具体的には、教科書の題材が Lesson 1 の「春休みのできごと」のように生徒の生活体験に近いものであれば、教科書の登場人物の意見を踏まえた自分自身の意見や感想を述べる表現活動を設定できる。また、Lesson 4 の「身近な地域の名所・名産紹介」のように普段の生活の中で改めて考えることが少ない題材であれば、「新しく赴任する A L T とその家族への自己紹介と地域紹介」を言語活動として設定することで、生徒は必然性をもって課題に取り組むことができると考える。

イ 表現活動における指導の工夫

教科書を読んで理解した内容を基に自分の体験に基づいて述べたり、読んだり聞いたりした内容を基に自分の経験から得たことを基に述べるといった 4 技能の統合的な活動を行うに当たって最も大きな課題は、必要な語彙や文構造を自分のものとして使用できるかどうかである。

基本的な語彙や文構造の知識はあるものの、実際にそれらを活用してまとまりのある英文を書くことのできる生徒は少ない。そこで、1時間でまとまりのある英文を書く指導を行うよりも、毎時間段階的に英文作成に取り組ませていく指導を行うことが効果的であると考えた。

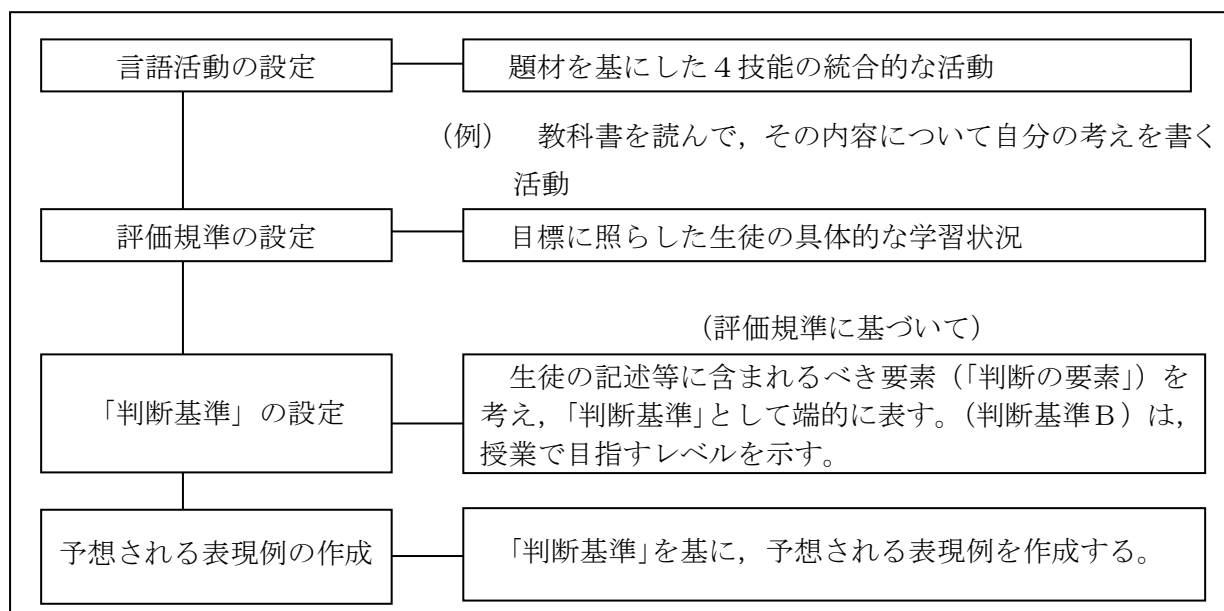
本実践では、理解した内容に関して考えたことを書く活動であるが、これまでの学習では、各時間の内容が単発的になっており、そのことがまとまりのある英文へとつながらない原因であると考えた。そこで各時間で **What do you think of this idea?**や **How about you?**等の問い掛けにより生徒の考えを引き出すようにした。また、単元を通した活動として、前時までの内容を繰り返し復習できるように、毎時間少しずつ内容が増えていくワークシートを使用することとした。

また、既習事項の活用に関しては、**"Writing Activity"**（既習事項を用いた対話活動）を帯活動として行い、基本文と同様にワークシートで少しずつ繰り返す指導を行った。その結果、書く内容を充実させることにつながった。

(2) 学習の関連を踏まえた「判断基準」の設定

ア 「判断基準」の設定

本研究においては、生徒の学習段階に適する表現や内容の目安を「判断基準」として設定し、到達目標及び見取りを的確に行えるような工夫を行っている。



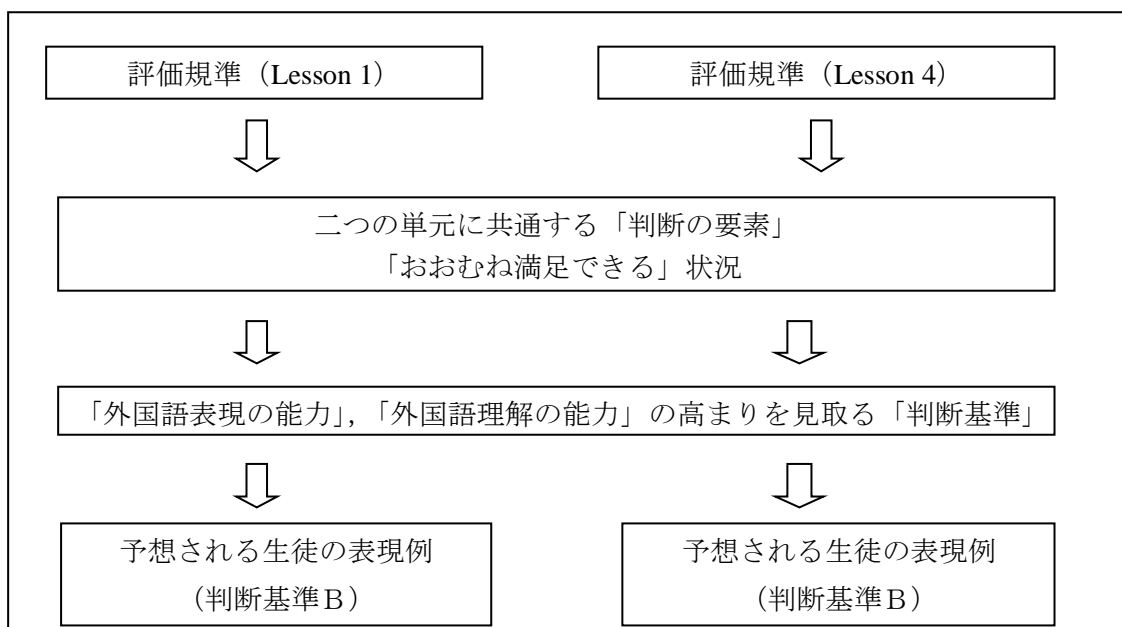
「判断基準」の設定手順

まとまりのある英文としてどの程度書いたとき「おおむね満足できる」状況なのかを判断する視点として、事前に「判断の要素」を設定した。そして、「判断の要素」を基に単元ごとの判断基準B（「おおむね満足できる」状況）を作成し、「予想される生徒の表現例」を設定した。そのことによって具体的な指導目標の設定や計画的な指導を行うことができる。

さらに、生徒の「外国語理解の能力」や「外国語表現の能力」は継続的な指導の中で高まることから、事前に指導した単元の言語活動を考慮し、指導計画を立てることにした。

例えば、既習単元の Lesson 1 は「春休みのできごと」を基に、自分の経験や興味をもったことを絵日記で紹介する題材である。また本単元の Lesson 4 は日本の各地域の食文化や特産物について知り、紹介する題材である。そこで、Lesson 4 の単元終末に「地域のことを知りたい」

と訴える人物の話を見聴する活動を加えることにより、他者の意見や要望を基にして、自分の意見や相手が求める情報の紹介を述べる言語活動を行うことができると考えた。学習内容の関連を踏まえることにより、生徒は Lesson 1 で学習した自分自身の経験や感想の述べ方、英文のつながりを意識した表現方法を Lesson 4 でも活用できる。自分の経験から得たことを基に地域の紹介を表現することで、表現の幅が広がるとともに、説得力が高まることが期待できると考えた。また、3学期に学習する Lesson 8 では、世界に目を向けて外国へ興味関心をもち、自分自身を発信することができるように、更なる自己表現の場として活用できるよう、学習内容の関連を図っていききたい。



イ 学習内容を関連させることによる「外国語表現の能力」の向上の工夫

二つの単元の学習内容を題材や言語の使用場面から関連付けることにより、Lesson 1 で学習した表現方法を Lesson 4 で活用させ、効果的に外国語表現の能力の向上が図れるよう指導することができる。具体的な指導の工夫として、次の3点を挙げる。

第一に学習課題の工夫である。二つの単元の題材を検討し、既習単元での表現活動の結果を本単元の「自分自身のことや地域の紹介を他者に述べる活動」に含められるように計画した。

第二に、表現活動に必要な語彙や文の習得である。学習課題を解決するために、どちらの単元においても生徒が自分自身のことを相手に分かりやすく伝える場面が設定されていることから、本単元においては、既習単元の活動で慣れ親しんだ英文を発展させる形で指導を行うことが可能である。それまでに増やしてきた語彙や表現をまとめる際に、伝えるべき相手に合わせた表現の見直しを行ったり、情報収集した事項を生かした自分自身の考えを加えたり、相手によりよく伝える文章構成を考えたりすることで活動の充実を図った。

第三は、指導過程の共通化である。内容は異なるが、既習単元と共通したワークシートや英問英答を用いることで、生徒の活動がスムーズに行われ、自主的、意欲的に表現活動に取り組むことができる。また、そのことで、生徒が自身の表現の能力の高まりを実感できると考えた。

2 授業設計の考え方

(1) 「判断基準」を生かした指導と単元の指導計画の在り方

評価規準に基づく判断基準Bや予想される生徒の表現例を設定しておくことで、一つの単元に対して見通しをもった取組を計画することができ、評価の際も具体的な項目を念頭に評価できるため、評価後に次への指導を計画的に行うことができる。また、生徒にとっても、求められている英文の量と、具体的に何を書くことができればゴール(判断基準B)に到達できるかがはっきりと見えるため、意欲的に活動に取り組むことができる。実際の授業の中では、下の表にあるように各時間に帯活動として設定した"Writing Activity"において、対話やワークシートによる英問英答を行い、少しずつ表現や語彙を増やしていく。そして、単元の終末で"Writing Activity"の内容をつなげることによって、まとまりのある英文が作成できるような指導計画を立てた。

時	学習活動	指導上の留意点
1	指宿や鹿児島を紹介①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 判断基準Bに照らし合わせて指導する。 ・ 判断基準Bで求めている英文が書けていない場合は個別指導する。
2	自分の経験を基にした地域の紹介	
3	指宿や鹿児島の有名なものの紹介	
4	自己紹介 (名前,好きなこと,自分の気持ちを述べる。)	
5	指宿や鹿児島の紹介② (指宿や鹿児島の紹介①に英文を付け加える。)	
6	"Writing Activity"で書いた英文の構成	
7	テーマについてまとまりのある英文の作成	ワークシートを基に評価する。
8	ビデオメッセージ作成・単元まとめテスト	映像を基に評価する。

(2) 既習単元の学習内容の生かし方

研究の視点で述べたように、今回の研究では第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを意識してより充実した言語活動を行うことと、第1学年の学習内容を繰り返し指導し定着を図ることに留意した。同時に第2学年1学期に学習した内容も取り入れることで、今まで学習した内容のまとめになるように計画した。また、既習単元で行った言語活動の内容を取り入れることで生徒は単元間の関連も意識して今回の活動に取り組むことができると考えた。具体的には、既習単元で学習した、自分の経験や感想を述べる活動を生かし、自分の経験から得たことを基に地域を紹介する活動へとつなげた。

3 検証授業

(1) 学習指導案

ア 単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 LESSON 4 Enjoy Sushi

イ 単元について

(ア) 教材観

本単元では、日本各地の寿司について扱う。本文においては、登場人物の住む地域や特産物を話題に、対話文や説明文が展開されている。日本各地の食文化に触れることにより、自

分の住む地域に興味関心をもち、もっと知りたいという意欲を喚起させることができる題材となっている。

言語材料としては、主に**There is (are)**～の文及び動詞の目的語となる動名詞の用法が扱われており、それらを基に自己表現をさせるのに適している題材であるとする。

(イ) 生徒観

本学級の生徒は全体的に明るい性格で、学習にも積極的である。英語に対しての興味・関心が高く、学習に対する雰囲気づくりができています。単語の発音や、教科書の役割読み、ペアワークなどにも積極的に取り組み、間違いを恐れず積極的に発表したり、自分なりの英語で話そうと努力したりする生徒も多い。特に女子の学習意欲が高く、大きな声で取り組む姿が見られる。男子は控え目ながらも、与えられた課題に真面目に取り組む姿が見られる。

中学校生活も折り返しの時期になり、英語学習に対する取組にも個人差が見られるようになってきた。特に、昨年度の鹿児島県定着度調査や、今年度の標準学力検査では、「話すこと」、「書くこと」の領域において通過率が低いことが分かった。このことから、まとまりのある英文を書く活動を設定する場合、生徒の発想や使用する語彙、そして英文を段階的に指導する必要がある。また、既習単元において行った「書くこと」の活動で、「判断基準」に基づく評価は、A(0人)、B(7人)、C(7人)であった。今年度は各単元で毎時間書く活動を設定しており、これまでの活動を生かした段階的な活動を組み立て、生徒がスムーズに取り組むことのできる手立てを行う。そこで、学習内容の確実な定着を図るために、次の3点を実践しているところである。

第一に、生徒が身に付けた基本的な知識・技能の活用を図るために、興味・関心を高め、4領域をバランスよく配置した授業展開を心掛けるということである。具体的には、「聞くこと」、「話すこと」に慣れ親しませながら、単元を通して段階的に英文を書く活動を行うことにより、確実に書く力を付けられるようにする。

第二に、1単位時間だけではなく、単元を見通した指導でまとまりのある英文を作成する活動を設定する場合、語彙や文法、英文を繰り返し指導するよう工夫している。具体的には、まず、既習単元の学習内容を振り返らせ、題材や言語材料を想起させたり、それらを活動に取り入れたりする指導を意図的・計画的に実施する。そして、既習単元の学習活動で書いた英文が活用できるような学習課題を設定し、単元終末までの学習過程を生徒に確認させることによって、生徒が見通しをもって学習を進めることができるようにする。

第三に、ペアやグループでの言語活動を通じた人間関係作りの工夫である。本学級では、ほとんどの生徒が、ペアワークやグループ活動に一生懸命取り組んでいる。少人数指導の長所を生かし、個々の生徒への支援を充実させながら、ペアやグループでの言語活動を多く行うことで、人とコミュニケーションを図ることを意識して、相手のよさを認め合い、互いに尊重し合える人間関係が構築できるよう支援していきたい。

(ウ) 指導観

本単元では、登場人物の住む地域や日本各地の特産物の紹介に基づき、自分たちの住む地域について、今学期から新しく赴任するALTやその家族に紹介する英文の作成に取り組ませる。その際、次の2点から指導を充実させる。

第一に、生徒の到達目標となる、まとまりのある英文をあらかじめ設定する。この英文は、1時間で作成することを求めるのではなく、毎時間の授業において、少しずつ作成させるよ

うにすることで、英語に苦手意識をもつ生徒でも意欲をもって作成できるよう指導していく。

第二に、Lesson 1では、自己紹介を含む修学旅行での出来事について5文から7文程度の英文で表現させる。まとまりのある英文を書けたという自信を、これからの単元での「書くこと」の活動に生かしていきたいと考える。このように、これまで学んだ表現を活動の中で実際に使うことで、同じような場面に出会ったとき、間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを図りたいという意欲をもたせるとともに、「もっと英語で表現してみたい、伝えてみたい」という気持ちを高めるようにしていきたい。

言語材料としては、主に**There is (are)**～の文及び動詞の目的語となる動名詞の用法を扱う。**There is(are)**～.の文は「～に…がある」という内容で、比較的簡単な英文法であるが、新情報を提示する際に使われることを理解させ、状況に応じた使い分けができるようにしたい。また、動名詞の指導に関しては、～ingが現在進行形と混同させないような工夫が必要である。これらの進出の言語材料を用いて、身近なことについて自己表現を繰り返させたり、ペアやグループ活動でのコミュニケーション活動を多く取り入れたりしながら身に付けさせていきたい。

ウ 単元の目標

- (ア) 周りの生徒と協力して、自分の考えを話したり書いたりして課題を解決しようとしている。
- (イ) 本文の内容に関連し、自分の住む地域についての紹介文を書くことができる。
- (ウ) 登場人物の住む地域や特産物、日本各地の寿司の紹介文の本文内容について、理解することができる。
- (エ) **There is (are)** ～や動名詞の意味、用法及び表現形式について理解している。

エ 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 学習した語彙や表現を用いて積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。 ② 学習した表現を用いて、積極的に紹介文作成に取り組んでいる。	① 本文を内容が正しく伝わるよう音読することができる。 ② 自分の住む地域や自分のことについて、学んだ表現を用い紹介文を書くことができる。	① 本単元の対話や、日本各地の寿司についての説明文を読んで、理解することができる。	① There is (are) ～の表現や動名詞を文構造として理解している。 ② 本単元で学習した単語を習得している。 ③ 紹介文の文章構成を理解している。

「判断基準」について、前単元とのつながりを考慮し、以下のように設定した。

【既習単元 Lesson 1】 Aloha	➡	【本単元 Lesson 4】 Enjoy Sushi
評価規準（外国語表現の能力）		
春休みの出来事についての対話文を読み、これまで学んだ表現を用いて、修学旅行の思い出や感想を5文以上の英文で書くことができる。		日本の各地域の食文化や紹介に付いての記述文や対話文を読み、これまで学んだ表現を用いて、ALT やその家族に、自己紹介を含む自分の住む地域の紹介文を7文以上の英文で書くことができる。
評価時期及び評価の対象（思考、判断に基づく表現内容）		
○ 7時間構成の第7時における終末時 ○ 内容理解に基づく自分の経験や感想の記述		○ 8時間構成の第7時における終末時 ○ 内容理解に基づく自己紹介を含む地域紹介の記述
判断の要素		
ア 内容を基にした記述 イ 自分の気持ちや価値に関する記述 ウ 自分の修学旅行での体験に関する記述 エ 既習事項の活用 オ 英文の量		ア 内容を基にした記述 イ 自分自身のことに関する記述 ウ 地域に関する記述 エ 既習事項の活用 オ 英文の量
判断基準B		
ア トピックを提示し、登場人物について述べている。 イ 登場人物の春休みの経験に関して感想や考えを述べている。 ウ 修学旅行での具体的な体験について述べている。 エ 過去の体験を表すための既習表現を活用している。 オ 5文以上の英文で述べている。		ア 読み手に情報を伝える内容となっている。 イ 自分のことについての情報を述べている。 ウ 自分の経験を基にして、自分の住む地域について紹介している。 エ 地域を紹介するための既習表現を活用している。 オ 7文以上の英文で述べている。
【予想される生徒の表現例】 I'm going to talk about a trip. Paul went to Hawaii on March 27. It's nice. We went to Nagasaki and Fukuoka on March 19. We watched a baseball game there. We had a good time.		【予想される生徒の表現例】 Hello, I'm Arata Chinatsu. I like watching movies very much. My favorite movie is "Frozen." Ibusuki is famous for hot springs. We can relax there. I often go there. There is a big lake near my school. It is Lake Ikeda. I enjoyed fishing there. It was fun. We can enjoy fishing there.
C状況の生徒への指導（補充指導）		
B状況にある生徒の作品を見せながら修正・加筆をさせる。		B状況にある生徒の作品を見せながら修正・加筆をさせる。
判断基準A		
(判断基準Bに加えて) ○ 自分の気持ちや価値を示し、さらに、考えや理由を述べている。 ○ 辞書等を活用し、接続詞や副詞等を効果的に用いている。 ○ その他、B状況以上にあると認められるもの。		(判断基準Bに加えて) ○ 地域の紹介として一文を加えることで、相手に理解できるように説明している。 ○ 辞書等を活用し、接続詞や副詞等を効果的に用いている。 ○ その他、B状況以上にあると認められるもの。
B状況の生徒への指導（深化指導）		
現在ある内容を確認し、辞書等を活用しながら、「夏休みの予定と自分の考えについて具体的に述べている」等の視点から指導する。		現在ある内容を確認し、辞書等を活用しながら、「読み手が望む情報について具体的に述べている」等の視点から指導する。

オ 単元の指導計画（全8時間 本時は7/8）

時間	主な学習内容	Writing Activity	単元の 評価規準	指導の重点			
				L	S	R	W
第1時	スキーマ形成, There is (are) の文構造 の確認, 表現活動, 新出単語の確認 (Part1)	指宿や鹿児島を紹介の作成① There is a big lake near my school. It's Lake Ikeda.	4-ア・イ 2-イ		◎		◎
第2時	本文内容理解 (Part1) 表現活動	経験を基にした地域について の英文作成 I enjoyed fishing in Lake Ikeda. It was fun.	3-ア 2-イ 1-ア	◎			◎
第3時	動名詞の確認, 表現活 動, 新出単語の確認 (Part2)	指宿や鹿児島の有名なもの についての英文作成 Ibusuki is famous for hot springs. We can relax there. I often go there.	4-ア・イ 2-イ 1-ア		◎		◎
第4時	本文内容理解 (Part2) 表現活動	自己紹介文の作成 (名前, 好きなこと) I am Arata Chinatsu. I like watching movies. My favorite movie is "Frozen."	2-イ 1-ア	◎			◎
第5時	本文内容理解, Q and A (Read①)	指宿や鹿児島の紹介の作成② (①の英文に英文を加える) We can enjoy fishing there.	1-ア 2-ア 3-ア 2-イ	◎		◎	◎
第6時	本文内容理解, Q and A (Read②)	Writing Activity で書いた英文 の再構成	1-ア 2-ア 3-ア	◎		◎	◎
第7時	前時までの教科書本文 内容や文法事項につい て再確認する。 ALT やその家族への指 宿や鹿児島の紹介文を, まとまりのある7文以 上の英文で書く。 発表練習, 発表	Hello, I'm Arata Chinatsu. I like watching movies very much. My favorite movie is "Frozen." Ibusuki is famous for hot springs. We can relax there. I often go there. There is a big lake near my school. It is Lake Ikeda. I enjoyed fishing there. It was fun. We can enjoy fishing there.	1-ア・イ 2-イ 4-ウ		◎		◎
第8時	文法事項のまとめ 単元テスト		4-ア		○	○	◎

カ 本時の実際

(1) 目標

ア 学習した表現を用いて、積極的に言語活動に取り組もうとしている。

イ 自己紹介を含んだ自分の住む地域の紹介文を7文以上の英文で書くことができる。

(2) 本時の実際

学習過程	時間	学習活動	○ 指導上の留意点 □ 評価
1 Greetings 2 Review 3 Warm-Up	10分	1 日常会話を含んだ挨拶をする。 2 前時の復習をする。 3 既習の英文法を用いた活動をする。	○ 英語学習の雰囲気をつくる。 ○ 既習の英文を繰り返し復習する。
4 Listening	25分	4 ビデオメッセージを見る。 Listening Points 1 故郷は何が有名か。 2 故郷には何があるか。 3 何をすることが好きか。 4 どんな情報を求めているか。	○ 学習意欲をもたせ、意欲的に学習に取り組ませる。 ○ 聞き取りの視点を与え、内容把握させる。 ○ 文と文のつながりや文型を意識させながら聞かせる。 □ ビデオの内容について理解することができたか。 ○ 教師の質問に適切に答えさせる。
5 Grasping Task		5 本時のタスクを確認する。 Kim 先生の夫 (Colin さん) に鹿児島や指宿について紹介しよう。	○ 本時のタスクを把握させ、意欲的に学習に取り組ませる。
6 Confirmation of the lesson		6 本時の授業の流れを把握する。 1 一人で確認, 練習 2 ペアで練習 3 グループで練習 4 紹介文を書く。	○ 前時までの内容を思い出し、全ての英文をつなげるように指導する。 ○ 適切にアドバイスをさせ、自然な英文になるように指導する。
7 Practice		7 前回までに作成した英文の再確認をする。	○ C状況になると予想される生徒への指導を行う。
8 Pair Work 9 Group Work		8 ペアで相互にアドバイスをさせ、紹介文の確認と発表練習をする。 9 グループで順番に発表し、相互に鑑賞, アドバイスする。	○ 発表の仕方 (ジェスチャーなど) について確認する。 □ 適切に活動に取り組んでいるか, 各グループを巡回して観察する。
10 Self-Expression	10 自己紹介を含む鹿児島や指宿についての紹介文について7文以上の英文で紹介する。	○ できるだけ多くのまとまりのある英文を表現するように指導する。	
11 Presentation	10分	11 全体で発表する。	□ 文章構成や文と文のつながりなどを意識して紹介文を作成することができたか。 □ なるべく原稿を見ないで発表することができたか。

12 Conclusion	5分	12 本時の学習を振り返る。	○ 本時の内容を整理させ学習内容を定着させる。
13 Assignment		13 次時の予告を聞き、今後の活動の見通しをもつ。	○ 今後の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。
14 Greetings		14 元気よく終わりの挨拶をする。	

キ 指導を振り返っての考察

教科書の内容理解に基づき、修学旅行での具体的な体験に基づいて述べる Lesson 1 の学習内容とのつながりを考えながら、今回、「読んで理解した内容を基に、自分の体験について述べる活動」と「読んだり聞いたりした内容を基に、自分の地域について経験から得たことを基に紹介する」というまとまりのある英文を作成することを指導した。既習事項を用いてテーマについて表現する活動を繰り返し継続して行うことは、4技能の統合的な活動へとつながる。

判断基準Bを基にした「予想される生徒の表現例」を設定したことで、1つの単元に対して見通しをもった取組を計画することができ、評価の際も具体的な項目を念頭において評価できるため、評価後の指導を具体的に行うことができた。また、生徒にとっても具体的に「何をどのくらい書くことができればゴールか」、つまり「判断基準Bに到達できるか」が明確になるため、意欲的に活動に取り組むことができたと考える。教師、生徒ともに到達目標を明確にすることができ、毎時間の帯活動の積み重ねが大きなまとまりのある英文へと発展していくことができたと考える。また、まとまりのある英文を作成させる場合、生徒が「伝えたい」と意欲的に喜んで書くことができる働き掛けが重要であることを改めて感じた。

今回の実践では、単元終末時に「地域のことを知りたい」と訴える人物のビデオレターを視聴させることによって、自己紹介と地域紹介の内容をワークシートにまとまりのある英文として書かせ評価を行った。最終的に判断基準Bを全て満たしたB状況の生徒は12人、判断基準Bを超えたと認められるA状況の生徒は2人、判断基準Bのいずれかを満たしていないC状況の生徒はいなかった。既習単元の Lesson 1 で行った評価と比較する。B状況の生徒は7人、A状況の生徒は0人、C状況の生徒は7人であった。比較すると、A状況の生徒が2人増加し、B状況の生徒が5人増加した。一方C状況の生徒が7人減少した。

このことから、単元を関連付けて、帯活動を大切にしながら繰り返し指導を行うことが大変効果的であると考える。またA状況の生徒が今回2人しかいなかった原因は、新しい取組としてビデオレター視聴を取り入れ、聞き取った内容を生かして自分の考えを述べるという、あまり慣れていない活動だったということが考えられる。

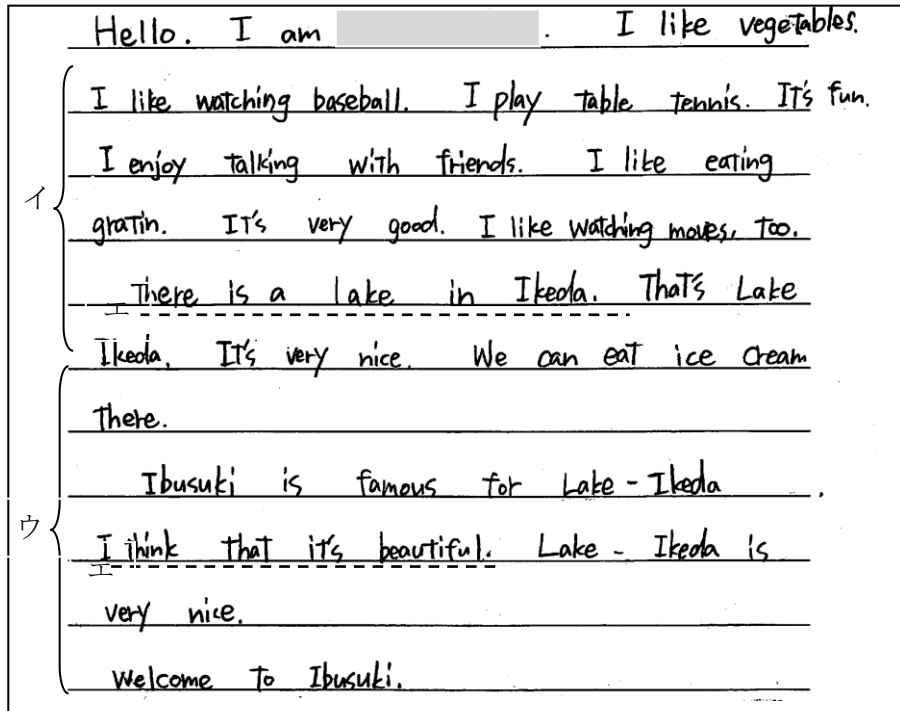
ク 評価結果に基づく補充・深化指導

判断基準B	予想される表現例
ア 読み手に情報を伝える内容となっている。 イ 自分のことについての情報を述べている。 ウ 自分の経験を基にして、自分の住む地域について紹介している。 エ 地域を紹介するための既習表現を活用している。 オ 7文以上の英文で述べている。	Hello, I'm Arata Chinatsu. I like watching movies very much. My favorite movie is "Frozen." Ibusuki is famous for hot springs. We can relax there. I often go there. There is a big lake near my school. It is Lake Ikeda. I enjoyed fishing there. It was fun. We can enjoy fishing there.

(ア) 判断基準Bに基づき、「努力を要する」と判断した生徒について

黒板に示したポイントを再度確認させ、自分の表現に加えるべき表現に気付かせるとともに、書き上げた英文をペアやグループ内で発表させ、互いに助言し合う時間を設定した。

(イ) 判断基準Bに基づき、「おおむね満足できる」と判断した生徒について



判断基準Bに基づく評価

- ア 読み手に情報を伝える内容となっている。(指宿についての紹介)
- イ 自分のことについての情報を述べている。(前半部の自己紹介)
- ウ 自分の経験を基にして、自分の住む地域について紹介している。(2, 3段落目の内容)
- エ 地域を紹介するための既習表現を活用している。(There is～等の活用)
- オ 7文以上の英文で述べている。(18文)

文章全体を通して全ての「判断基準」を満たしているため、この英文はB状況にあると判断した。地域を紹介するための表現や自己紹介の表現においては、動名詞や接続詞 that が活用されるなど、特に2学年における既習単元での学習内容も生かされている。この生徒に対しては、接続詞を効果的に用いている生徒や、視聴したビデオメッセージの内容について自分の考えや感想などの表現を付け加えている生徒の英文を紹介することで、ビデオメッセージを送った相手のことを考えた表現につなげるよう指導した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 「書くこと」の活動において、「判断基準」を設定したことにより、到達目標が明確になり、まとまりのある英文作成に意欲的に取り組ませることができた。
- イ 学習内容の関連を踏まえることにより、既習の表現を活用させるために計画的な指導が定着し、活動を充実させることができた。
- ウ ペアやグループでの対話活動において、互いに助言し合うなど、生徒の主体的な活動が充実し、英文を更に発展させることができた。

(2) 課題

- ア 学習内容の関連については、3年間の見通しをもって行うことができるよう、指導計画を見直す必要がある。
- イ 生徒が今後も4技能を統合的に活用させる活動を意欲的に取り組むことができるような題材を設定する必要がある。

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成
～第3学年 読んで理解したことを基に書いて表現する活動の実践を通して～

川薩清修館高等学校
教諭 出水田 隆文

はじめに

本校は平成 19 年 4 月開校の新設校である。総合学科（文理・スポーツ・情報の 3 系列）とビジネス会計科の 2 学科 4 学級からなる（現 1 年生は入学者減により 3 学級）。今年度 3 月には 5 期生の卒業式を実施した。

生徒の進路希望先は就職希望と進学希望が半々である。毎年数名の生徒が国公立大学へ進学する。授業は成り立ちやすいが、基礎学力不足による困難を抱えている生徒が多数を占める。英語の授業ではアルファベットの定着からはじまり、英語らしい発音、基礎的表現の定着を共通した目標として取り組んでいる。

基礎事項の定着を優先事項として取り組んでいるため、授業がトレーニング主体のものとなってしまう、思考力・判断力を向上させるような指導が特に不十分になりがちである。また、それに起因して自らの意見・考えを表現させるような指導までなかなか行き着かないのが課題である。

思考力や表現力はレッスン一つだけで育成を完結できるものではなく、1 年間ひいては 3 年間を通じて継続的に育成を目指すべきものとする。そこで本研究に当たり、単に教科書に書いてあることを理解するだけでなく、自分の意見や考えを英語で表現させる活動を複数単元にわたり設定し、「生徒の思考力・判断力・表現力」の育成に継続的・長期的に取り組もうと計画した。

授業においては、教科書的话题を踏まえてその背景知識や問題点、現状などに関する情報にも触れた上で表現活動に取り組んでいる。内容に迫る設問をいくつも設定し、理解を深めることを柱に据えた授業設計を行った。

1 研究の視点

(1) 外国語科（英語）における思考力・判断力・表現力を育成する言語活動

ア 4 技能を統合的に活用させる言語活動

本校では、基礎事項定着に多くの時間を割くため、英語で自分の考えを表現させる機会が少ないという課題があった。訳や新出単語、文法などの機能面を理解するだけでなく、学習内容に関する自らの考えをまとめさせる活動を通して生徒はより深く、書いてあることの中身を理解するのではと考えた。またそのような活動を繰り返し行うことで、他の場面でも自らの意見を英語で表現できる機会を増やすことが効果的であるとする。

具体的には教科書の題材が Lesson 1 の「ウミガメ」のように海の生物に関するものであれば、ウミガメを中心とした生態系保護の重要性と現状の問題点に関する英文を読んで、自らの考えを書くという表現活動を設定できる。そして Lesson 4 の「海外に広がる寿司文化」を学んだ際に、既習単位と同じように魚を中心に海の生態系に関する問題点に関する英文を読んで自らの考えを書く表現活動を設定すれば、既習単位での学習内容との関連を踏まえた表現活動を設定できる。

イ 表現活動における指導の工夫

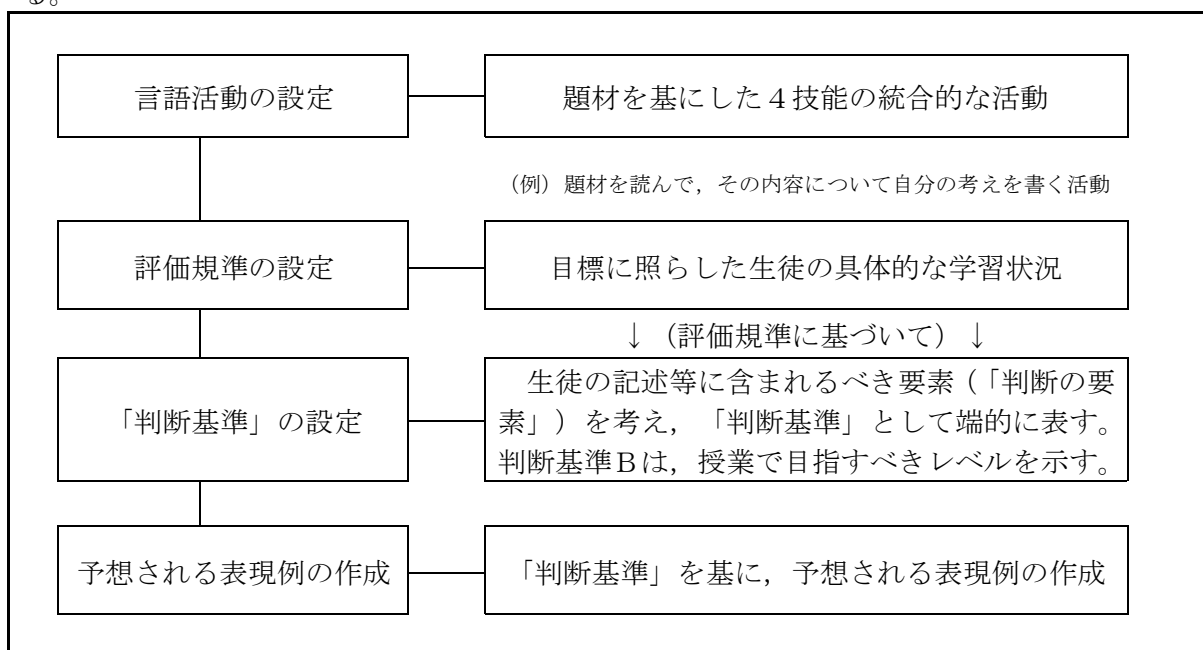
「理解した内容を基に自分の考えを書く」など、4 技能を統合的に活用させる活動を行うに当たって課題となることは「自分の考えをどうまとめるか」、「自分の考えをどのように英語で表現するか」の 2 点である。

「自分の考えをどうまとめるか」については、単元の内容を学習する際に、「What do you want to do to protect sea turtles?」などの発問をして、主体的に単元と関わり、考えを深められるよう工夫した。「自分の考えをどのように英語で表現するか」については、クラスメートと英語で行う意見交換の場を設定し、クラスメートがどこに着目し、どのような意見を持ち、どのような表現で自分の意見を述べているのかをやり取りし、互いに刺激を与え合う機会を設けた。

(2) 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定

ア 「判断基準」の設定

本研究においては、評価規準を踏まえ「おおむね満足できる」状況とみなすことができる表現や内容を「判断基準」として設定し、到達目標及び見取りを的確に行えるような工夫を行っている。

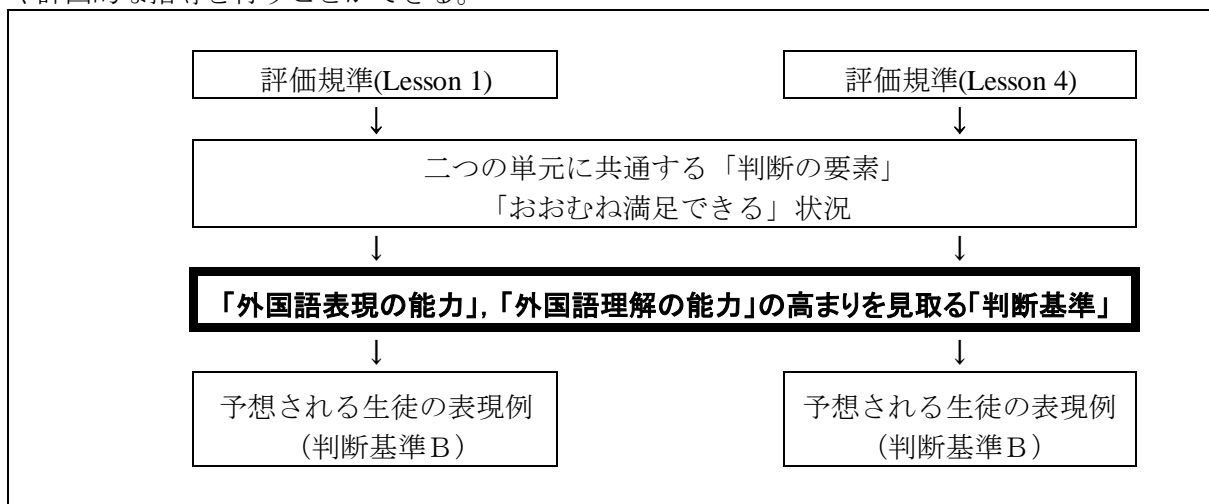


「判断基準」の設定手順

さらに、生徒の「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」は継続的な指導の中で高まることから、前に指導した単元の言語活動を考慮し、指導計画を立てることにした。これが学習内容の関連である。

今回の実践では、既習単元 Lesson 1 では、ウミガメ保護の事例を読んで、自らの感想や気持ちを 50 語以上の英文で記述させた。本単元の Lesson 4 では寿司と世界の漁業事情を読み、自らの考えや主張を 70 語以上の英文で記述させた。現在進行中の生態系の破壊について、自ら考え判断しそれを英語で表現するという点で、Lesson 1 で用いた言語材料などを更に発展させて Lesson 4 でも活用できると考えた。

まとまりのある英文として、どの程度書いたとき「おおむね満足できる」状況なのかを判断する根拠として事前に「判断の要素」を設定した。それを基に各単元の判断基準 B（「おおむね満足できる」状況）を作成し、予想される「生徒の表現例」を設定した。これにより指導目標の設定や計画的な指導を行うことができる。



学習における単元間の関連の考え方

イ 学習内容を関連させることによる「外国語表現の能力」の向上の工夫

二つの単元に共通する、技能の統合的な活用を図る活動を設定することにより、既習単元で学習した表現などを本単元でも活用するなど、外国語表現の能力について効率的に指導することができる。具体的な指導の工夫としては以下の3点である。

第一に学習課題の設定である。題材を自分たちの生活に直結する問題として捉え、自らの考えをまとめ、それを英語で表現するという活動を設定することで、題材をより身近なものとして学習することができる。第二に、自らの考えや意見を述べるのに必要な表現や語彙の習得である。第三に生徒が自分自身の能力の向上を実感することができることである。既習の単元で学習したことを本単元でも発展的に用いることができるように学習課題を設定することで、表現したいことをより深めて表現できるようになると考えた。また、それにより、「以前よりもたくさん表現できた」という実感をもつことができるだろうと考えた。

さらに、該当クラスでは、昨年度も学習内容を関連させて「外国語表現の能力」の向上を目指した表現活動に取り組んだ。3年生になった今年度は世界に多数存在する諸問題の中から、環境問題を選択し自分の考えを英語で思考し表現する機会を設け、生徒たちがよりグローバルな視野をもつことを期待した。

2 授業設計の考え方

(1) 「判断基準」を生かした指導と単元の指導計画の在り方

「判断基準」を設定することにより、教師は何についてどのくらいの量の英文で表現させるべきか意識しながら授業に臨み、学習課題の設定や語彙の提示などを工夫することができる。それにより、指導がより具体的になり、評価も具体的で明確な基準を設けて行うことができる。生徒も求められている量と、何についてどのように記述するべきかがはっきりしているので明確な目標をもって表現活動に取り組むことができる。

学習した内容に関して自分の考えを表現するためには、学習内容の深い理解が必要である。そこで、単語・文法などの理解を深めるとともに、題材を自分のこととして捉えさせるような発問等を繰り返し設定することが必要であると考え、実践に取り入れた。その二つを同時並行的に深めるための学習課題に取り組みながらクラスメートとの関わりを通して思考を深められると考える。

(2) 既習単元の学習内容の生かし方

これまでの授業では、学習した英文の内容について深く思考する機会を設定できていなかった。そのため、今回の研究では読んだことに関して自分はどう思ったかについて思考・判断させ、それを英語で表現させる活動を複数単元で設定した。既習単元では小笠原諸島におけるウミガメ保護の活動に関する題材を読み、自分たちの生活にも影響を与え得るウミガメ保護の現状について考えを深めさせ、自分の感想や気持ちを表現させた。本単元では世界に広がる寿司文化に関する英文を読んで、寿司が世界的に人気になりつつあることを理解し、さらに、世界的な魚への食料需要の高まりが引き起こしつつある乱獲の問題も読み思考を深めた後、自分の考えや主張を表現させた。自らの意見を表現する活動としてこの二つの単元の関連を意識して指導を行った。

それにより、既習単元で使った表現を再び使うことで習得の機会を作り出すことができ、さらに、表現する量なども増やすよう指導することができると考えた。具体的な言語材料としては、自らの考えを述べるための表現（I was 形容詞 to know ～等）や、生態系保護に関する語彙・表現を用いて表現することとした。

単元	内容	設定した自己表現活動
Lesson 1 (既習単元)	“Come Back Again, Little Turtles!” (内容) 小笠原諸島におけるウミガメ保護活動	Write your opinion about sea turtles. Your essay should include more than 50 words.
Lesson 4 (本単元)	“Sushi” (内容) 世界に広がる寿司文化と世界の漁業の現状	What do you think of the problem? Your essay should include more than 70 words.

3 検証授業

(1) 単元名 Vista English series II Lesson 4 Sushi

(2) 単元について

ア 題材観

本課では、世界に広がる寿司文化を紹介するという形で寿司の歴史や寿司が人気である理由を学ぶ。それに付け加えて乱獲の現状と問題点などを紹介する英文を読み、今後の漁業の在り方について考えを深め意見発表を行う。

イ 生徒観

授業対象生徒は、総合学科3年文理系列10人である。文理系列は国公立大学・短大、医療系専門学校などへの進学希望者と公務員希望者が主で、該当クラスは国公立大学希望が7人、私立大学希望が3人である。英語への学習意欲は高いが、基礎的事項の定着率は個人差があり指導に工夫が必要である。

英語表現や文法の知識があまり身に付いていないため、英作文は対象生徒が特に苦手としている。また、自分の意見を考え・まとめ・表現する（発表する）ことが苦手で、「君はどう思う？」という問いに対して答えられない生徒が目立つ。

ウ 指導観

「世界に広がる寿司文化と漁業の現状に関する英文を読み、自らの考えと取るべき行動について、英語でまとまりよく表現することができる」ことを評価規準とし、本文の内容に基づいて生徒が自分の考えを英語で表現しやすくするために、以下のような明確な指導目標を掲げて分かりやすい指導を心掛けた。

- ・ 表面的な理解にとどまらず、内容を深いレベルまで理解する学習課題を設定する。
- ・ 単元を通して自己表現活動を繰り返し行い、「思考・判断・表現」の機会を設ける。
- ・ 何度も考えを練り直す機会を設定することで表現内容の洗練を図る。
- ・ 他の生徒と意見を交換する機会を設ける。

(3) 単元の目標

- ア 本文の内容を読んで、分かったことや考えたことについて積極的に英語で話そうとしている。
- イ 寿司とそれを支える漁業が海洋生態系に与える影響について自らの考えを英語でまとまりよく表現できる。
- ウ 仮定法の意味・用法を理解している。
- エ 世界の漁業が海洋生態系に与えている影響と今後の見通しについて理解を深める。

(4) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 英文を読んで、内容について自分の思ったことや感じたこと、考えたことを積極的に表現しようとしている。 ② 会話活動を通して、会話をとぎらせずに続けようとしている。	① 本文の内容に関して、自らの感想・考えを英語で表現できる。 ② 自らの取るべき行動を考え、英語で表現できる。 ③ 人類が取るべき行動を考え、英語で表現できる。	① 寿司文化の世界への広がりを的確に理解できる。	① 本文に出ている単語や表現を理解している。

学習内容の関連を踏まえて設定した「判断基準」(高等学校3年)

Lesson 1 (既習単元) 評価規準	Lesson 4 (本単元) 評価規準
小笠原諸島におけるウミガメ保護活動とウミガメ保護の重要性に関する英文を読み、自分の考えを英語で表現することができる。	世界に広がる寿司文化と漁業の現状に関する英文を読み、自らの考えと取るべき行動について英語でまとまりよく表現することができる。
評価時期及び評価の対象 (思考, 判断に基づく表現内容)	
○ 7時間構成の第5時～第7時 ○ 内容理解を基にした感想や考えの記述	○ 7時間構成の第5時～第7時 ○ 内容理解を基にした意見や考えの記述
判断の要素	
ア 本文の内容に関する記述 イ 自分の考えや感想の記述 ウ 分かりやすい英文展開 エ 英文の量 (50 語以上)	ア 本文の内容に関する記述 イ 自分の考えや主張の記述 ウ 分かりやすい論の展開 エ 英文の量 (70 語以上)
判断基準 B	
ア 本文の具体的内容を取り上げている。 イ ウミガメをとりまく問題について自分の考えや感想を記述している。 ウ 基本的な discourse marker を用いて分かりやすく英文を書いている。 エ 50 語以上の英文で述べている。	ア 本文の具体的内容を取り上げている。 イ 世界の漁業の問題点と今後取るべき行動について自分の考えや主張を書いている。 ウ 適切な英語を用いて、相手に分かりやすく説得力のある英文を書いている。 エ 70 語以上の英文で述べている。
【予想される生徒の表現例】 I was surprised to know that sea turtles are so important animal for ecosystems. Sea turtles are essential for both marine ecosystems and beach ecosystems. Sea turtles are an important key for the cycles. If sea turtles went extinct, we lose so many things. We humans have to protect sea turtles.	【予想される生徒の表現例】 I love sushi. Sushi is a Japanese traditional dish, so I have thought that we Japanese can eat them forever. However marine ecosystems are in danger because of overfishing. I'm very surprised to know that blue fin tuna is in risk of extinction. We have to save and protect marine food resources. I strongly believe destructive trawling should be banned. All of the people in the world have to act for our future food resources.
C 状況の生徒への指導 (補充指導)	
・ 教師の指導を基に、B 状況にある生徒との学び合いや ALT の指導等で修正・加筆をさせる。	・ 教師の指導を基に、B 状況にある生徒との学び合いや ALT の指導等で修正・加筆をさせる。 ・ 既習単元での言語材料を振り返らせる。
判断基準 A	
(判断基準 B に加えて) ○ 自分の考えの具体的記述が 2 文以上ある。 ○ 英文は 70 語以上。 ○ ウミガメ保護を自分のこととして考えている記述がある。 など	(判断基準 B に加えて) ○ 海洋生態系の危機的状況がより具体的に書かれている。 ○ 英文は 100 語以上。 ○ 自分の考え、今後取るべき行動に関する具体的記述が 3 文以上ある。 など

B状況の生徒への指導（深化指導）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ A状況にある生徒の作品例を提示して、書いてある内容の違いや英語の正確性などに気付かせ、自己の作品を再度推敲させる。 ○ 間違っ部分には下線を引き、自己推敲の際に訂正させる。 ○ 既習の言語材料を提示し、英語の表現が多様になるよう工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ A状況にある生徒の作品例を提示して、書いてある内容の違いや英語の正確性などに気付かせ、自己の作品を再度推敲させる。 ○ 間違っ部分には下線を引き、自己推敲の際に訂正させる。 ○ 既習の言語材料を提示し、英語の表現が多様になるよう、また説得力に富むよう工夫させる。

(5) 指導と評価の計画（全7時間）

時	指導のねらいと学習活動	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の概要や要点を捉える。 ・ Oral Introduction や教科書の写真を使いながら、課全体の概要を理解させる。 ○ 本文の内容を把握する。 	ウの①	活動の観察 ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の内容を捉える。<u>世界に広がる寿司文化</u> ・ フレーズハント、リスニング、音読練習を通して本文の内容を理解させる。 	ウの①	活動の観察 ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ Additional Reading 教材の要約を読み概要を把握する。 ・ 英問英答で内容確認を行う。 	ウの① エの①	活動の観察 ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ Additional Reading 教材の本文を読み概要を捉える。<u>乱獲が引き起こしつつある生態系の破壊</u> ・ フレーズハント、リスニング、音読練習を通して全体の内容を理解させる。 	ウの① エの①	活動の観察 ワークシート
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の内容理解を深める ・ 重要キーワード等を Power Point で提示し理解を深める。 ○ レジュメに従って適宜メモを取る。 ○ メモを基に自分の意見をグループで紹介し合う。 ○ 自己表現活動に取り組む。 	ウの① アの①②	活動の観察 ワークシート 作品チェック
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読練習を行う。 ○ 第5時に仕上げた作品を相互に鑑賞し合う。 ・ 文法上の間違いなどを指摘し合う。 ・ 判断基準 B に基づいて補充指導、深化指導を行う。 	エの① アの①② イの①②③ ウの①	活動の観察 作品チェック
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ Lesson 4 の総復習を行う。 ・ 内容理解に関する設問を解く。 ・ 補充・深化指導を経て推敲した作品を提出させる。 	アの① イの①②③ ウの①	解答チェック 作品チェック

(6) 本時の学習活動（5／7時間）

ア 目標

活動を通して内容理解を深めつつ、食料確保や乱獲について学習し、自分の考えをまとめ発表し、アイデアの交換を行う。その上で、自分の意見・考えを70語以上の英文で書く。

イ 本時の実際

学習活動	生徒の活動	分	○指導上の留意点 □評価
1 挨拶 2 単語練習	1 挨拶をする。 2 進出単語を音読練習する。	5	○ 英語学習の雰囲気を作る。 ○ 新出語句の意味・発音を確認する。
3 黙読 4 説明 5 表現活動1 6 表現活動2	3 本文を読み通す。 4 Visual Aids を元に理解を深める。 5 グループを作り、相互に意見交換し合う。 6 英作文に取り組む。	42	○ 指でたどらせる。 ○ 適宜質問するなど、生徒の内容理解を確かめる。 □ 表現活動の様子を観察し、評価する。 ○ 机間指導を行う。
7 提出 8 次時の指示 9 挨拶	7 提出する。 8 次時の見通しをもつ。 9 挨拶をする。	3	○ 時間内に課題を達成することができなかった生徒には次時までに仕上げるように指示する。

(7) 指導を振り返っての考察

Lesson 1 の1次評価でC状況と判断された3人は、語数不足が2人、英文として意味が通じないものが1人であった。「自分の感じたことを言語化する」ことが不得手で、さらに、それを「英語に訳す英語力が不足している」のだと仮説を立てた。そこで以下のような指導を行った。

- 再度本文の内容を理解できるように補充指導を行った。
- 友人達の作品を鑑賞させた。
- 友人同士で添削させた。

その後再提出させた作品では、全体的に英文量が増え、難しい語彙も使われるなど生徒の表現力の伸びが見られた。また、より具体的に自分のこととして英文の内容を捉えるような表現が増えた。

Lesson 4 の1次評価でC状況と判断された生徒は1人であった。既習単元から継続的に表現活動を設定してきた成果だと思われる。本文理解をより深めるための設問や自分と結び付ける設問をしたことで、思考を深めるためのきっかけとすることができた。また、友人と意見交換を何度もさせたため友人達の意見を参考にすることができた。さらに、学習の成果を実感でき自らの成長に充実感を覚えた生徒も多かったようである。

生徒作品の評価結果（対象：10人）

	単元	評価	A状況	B状況	C状況
既習単元	Lesson 1 <i>Come Back Again!</i> <i>Little Turtles.</i>	1次	1人	6人	3人
		2次	2人	8人	0人
本単元	Lesson 4 <i>Sushi</i>	1次	2人	7人	1人
		2次	3人	7人	0人

(8) 評価結果に基づく補充・深化指導

ア 判断基準Bに基づき「努力を要する」と判断した生徒に対する補充指導

I love sushi very much. I eat sushi almost every month. I have not thought about overfishing. I learned that overfishing is a big problem. We should stop overfishing. I hope we can eat sushi forever. We should protect fish. It is important for us to think overfishing is bad. (50 語)

【判断基準Bによる見取り】

- ア 本文の具体的内容を取り上げている。
- △ イ 世界の漁業の問題点と今後取るべき行動について自分の考えや主張を書いている。
- × ウ 適切な英語を用いて、相手に分かりやすく説得力のある英文を書いている。
- × エ 70 語以上の英文で述べている。



補充指導の例

- ・ 題材を再度読ませ、具体的事項を確認させ、自分の考えや主張を整理させた。
- ・ 英文がより説得力があるように、適切な **discourse marker** を提示した。
- ・ 既習単元で用いた語彙や表現を復習させて、英文の量を増やした。



〈補充指導後の生徒の作品〉

I love sushi very much. I eat sushi almost every month. I have never thought that overfishing is a big problem. I learned about the overfishing and was surprised to know that some fish are in danger of extinction. We should think about not only ourselves but also many creatures in the marine ecosystem. Thanks to the creatures in the sea, we can eat delicious food. So, we should ban overfishing to protect fish. (74 語)

イ 判断基準Bに基づき「おおむね満足できる」状況と判断した生徒への深化指導

B 状況にある生徒に対しては、より英文が充実するよう深化指導を行った。英文がより説得力に富むように、適切な **discourse marker** や命を頂くことについての表現を追加させた。

〈深化指導後の生徒の作品…下線部は追加された表現〉

I was very surprised when I read this article. I didn't know that overfishing is destroying ocean ecosystems. We have always eaten too much fish by overfishing. So we must stop overfishing right now. Overfishing means catching too much fish from oceans. It is mainly caused by bottom trawling and development of technology. Especially, bottom trawling has destroyed ocean ecosystems because other sea animals are caught by the trawling. If we continue trawling, there will be less fish in the future. What humans have to do is to stop overfishing. So humans should stop trawling to protect young fish and other sea animals. And we must thank fish when we eat sushi. (112 語)

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 「書くこと」という自己表現活動において「判断基準」を設定したことにより、到達目標が明確に示され生徒にとっては具体的目標をもって取り組みやすく、教師にとっては指導しやすくなった。
- イ 二つの単元で学習の関連を意識して表現活動を行ったことで、課題解決意識の高まりが見られた。また、既習単元で用いた表現等を本単元でも用いるなど、知識・技能の確実な定着が見られた。
- ウ 2年継続して指導した結果、生徒の表現力が質・量ともに大幅に向上した。

(2) 課題

- ア 「判断基準」の妥当性とそれに基づいた指導の在り方について、他学年との関連を図る必要がある。
- イ 「外国語理解の能力」の観点からも「判断基準」の妥当性をより検証する必要がある。